

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成24年3月28日

【事業年度】 第6期(自平成23年1月1日至平成23年12月31日)

【会社名】 株式会社リブセンス

【英訳名】 Livesense Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 村上 太一

【本店の所在の場所】 東京都渋谷区南平台町16番28号

【電話番号】 03-6275-3330

【事務連絡者氏名】 取締役 経営管理本部長 岩崎 優一

【最寄りの連絡場所】 東京都渋谷区南平台町16番28号

【電話番号】 03-6275-3330

【事務連絡者氏名】 取締役 経営管理本部長 岩崎 優一

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

提出会社の経営指標等

回次	第2期	第3期	第4期	第5期	第6期
決算年月	平成19年12月	平成20年12月	平成21年12月	平成22年12月	平成23年12月
売上高 (千円)	72,059	321,197	573,218	637,198	1,134,497
経常利益 (千円)	31,080	152,756	214,858	217,515	508,043
当期純利益 (千円)	17,955	90,410	123,631	123,069	273,891
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)					
資本金 (千円)	3,000	15,000	15,000	15,000	219,930
発行済株式総数 (株)	60	300	15,000	15,000	3,450,000
純資産額 (千円)	20,797	123,208	246,839	369,909	1,053,660
総資産額 (千円)	36,052	202,032	362,755	437,371	1,323,943
1株当たり純資産額 (円)	346,619.48	410,693.83	16,455.97	24,660.63	305.41
1株当たり配当額 (1株当たり中間配当額) (円)	()	()	()	()	()
1株当たり当期純利益 金額 (円)	299,254.85	813,432.12	8,242.09	8,204.66	90.37
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 金額 (円)					89.42
自己資本比率 (%)	57.7	61.0	68.0	84.6	79.6
自己資本利益率 (%)	151.9	125.6	66.8	39.9	38.5
株価収益率 (倍)					33.0
配当性向 (%)					
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)			142,330	77,409	432,152
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)			30,479	31,385	54,558
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)					400,717
現金及び現金同等物 の期末残高 (千円)			235,291	281,315	1,059,625
従業員数 (外、臨時従業員数) (名)	(4)	2 (7)	20 (5)	26 (7)	42 (19)

- (注) 1 . 当社は、連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 . 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 . 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社が存在しないため記載しておりません。
- 4 . 潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益金額については、第 2 期から第 5 期については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 5 . 株価収益率については、第 2 期から第 5 期については、当社株式は非上場であるため記載しておりません。
- 6 . 当社は第 4 期よりキャッシュ・フロー計算書を作成しておりますので、第 2 期及び第 3 期のキャッシュ・フロー計算書に係る各項目については記載しておりません。
- 7 . 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数（パートタイム含む）は年間平均人員を（ ）内にて外数で記載しております。
- 8 . 第 4 期、第 5 期及び第 6 期の財務諸表については、金融商品取引法第 193 条の 2 第 1 項の規定に基づき、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けておりますが、第 2 期及び第 3 期の財務諸表につきましては、監査を受けておりません。
- 9 . 平成 21 年 11 月 7 日付で株式 1 株につき 50 株、平成 23 年 9 月 28 日付で株式 1 株につき 200 株の株式分割を行っております。

2 【沿革】

当社の創業者である村上太一は、早稲田大学1年生の時に実施された「ベンチャー起業家養成基礎講座」のビジネスプランコンテストにおいて、現在の当社主要メディア「ジョブセンス」の基本概念となるネットを活用した人材ビジネスを発表し、最優秀賞を獲得いたしました。

その後、株式会社大和総研でのインターン等を経て、上記の最優秀賞を獲得したビジネスプラン実現を目的として当社を設立しております。

年月	事項
平成18年2月	東京都大田区上池台において、インターネットを媒体としたコンテンツ配信事業を目的として株式会社リブセンスを設立
平成18年4月	成功報酬型アルバイト情報サイト「ジョブセンス」のサービス開始
平成19年3月	成功報酬型アルバイト情報サイト「ジョブセンス」をリニューアルし、全国でのサービス開始
平成19年7月	本社を東京都新宿区早稲田鶴巻町に移転
平成20年5月	成功報酬型求人情報サイト「ジョブセンス社員」のサービス開始
平成20年8月	本社を東京都新宿区高田馬場に移転
平成21年4月	「ジョブセンス社員」を「ジョブセンスLink」としてリニューアル
平成21年10月	成功報酬型派遣情報サイト「ジョブセンス派遣」のサービス開始
平成21年12月	本社を東京都渋谷区南平台町に移転
平成22年3月	プライバシーマーク取得
平成22年4月	成功報酬型賃貸情報サイト「DOOR賃貸」のサービス開始
平成23年6月	成功報酬型中古車情報サイト「Motors-net」のサービス開始
平成23年12月	東京証券取引所マザーズ市場に株式を上場
平成23年12月	転職クチコミサイト「転職会議」をリニューアル

3 【事業の内容】

当社は、インターネット上にて、当社の持つWebマーケティング技術を活かし、「成功報酬型ビジネスモデル」を採用した各種情報メディアの運営を中心に事業を行っております。

当社では、運営するインターネットメディアの利用者を効率的に増やすべく、SEO（検索エンジン最適化）を中心としたWebマーケティング技術の向上について継続的に注力しております。また、広告掲載企業やサイト利用者にとり利便性の高いメディアを運営するため、企画、サイトデザイン、システム開発、運営までを一貫して社内で手掛ける体制を構築しております。

当社事業の特徴である「成功報酬型ビジネスモデル」とは、求人広告や不動産物件等の広告掲載を希望する企業に対し、掲載費等の各種費用を最初に負担頂くモデルではなく、求人の採用確定時や不動産広告への問合せ発生時など、広告掲載企業の希望する要件が確定した時点において、初めて成功報酬を頂戴するビジネスモデルであります。また、採用が確定した利用者や不動産賃貸契約が確定した利用者には「採用（転職、登録）祝い金」の贈呈やキャッシュバックをしており、利用者側に対してもインセンティブを設けております。

現在、当該ビジネスモデルとの親和性が高い求人情報メディア事業及び不動産情報メディア事業を中心に運営しております。

当社の事業区分及び主要サイトは、以下のとおりです。

セグメントの名称	主要サイト及び分野	事業内容及び目的
求人情報メディア事業	・ 成功報酬型アルバイト情報サイト 「ジョブセンス」	アルバイトの求人案件を扱う情報サイト
	・ 成功報酬型転職情報サイト 「ジョブセンスLink」	正社員・契約社員の求人案件を扱う情報サイト
	・ 成功報酬型派遣情報サイト 「ジョブセンス派遣」	派遣の求人案件を扱う情報サイト
不動産情報メディア事業	・ 成功報酬型賃貸情報サイト 「DOOR賃貸」	賃貸情報を扱う情報サイト
その他事業	・ 成功報酬型中古車情報サイト 「Motors-net」	中古車情報を扱う情報サイト
	・ 転職クチコミサイト 「転職会議」	転職希望者向けに、サイト利用者によって書き込まれた企業の評判等を扱う情報サイト
		検索エンジン最適化の助言業務等

(1) 求人情報メディア事業

求人情報メディア事業では、インターネット上でアルバイトの求人情報を提供するサイト「ジョブセンス」、正社員・契約社員の転職情報を提供するサイト「ジョブセンスLink」、派遣社員の求人情報を提供するサイト「ジョブセンス派遣」を運営しております。

これまでの一般的な求人広告メディアにおきましては、求人企業が採用の成否に関わらず、求人広告掲載時に掲載費等の費用を負担しておりました。しかしながら、当社メディアにおきましては、広告掲載期間等を限定することなく、求人案件の採用や登録が確定した時点で初めて求人企業より成功報酬を頂戴するビジネスモデルである点が特長であり、求人企業においては、費用対効果の高い求人広告の掲載が可能となっております。

また、求職者におきましても、付加価値の高いメディアとして認識頂けるよう、当社求人メディアを利用して採用が確定した求職者に対し「採用（転職、登録）祝い金」の贈呈を行っております。

さらに、「ジョブセンス」及び「ジョブセンスLink」におきましては、求職者の会員登録が可能となっており、複数企業への応募が簡便に行えると共に、希望条件に合致した求人情報の取得、求人企業からのスカウトメールの受信等が可能となっております。

(2) 不動産情報メディア事業

不動産情報メディア事業では、インターネット上で不動産賃貸情報を提供するサイト「DOOR賃貸」を運営しております。

当該サイトは、平成22年4月より開始したサービスであり、求人情報メディア事業と同様、成功報酬型ビジネスモデルを導入したメディア運営が特徴となっており、賃貸物件情報を掲載した企業に対し、サイト利用者から問合せが発生した時点で初めて企業より成功報酬を頂戴するモデルとなっております。

また、「DOOR賃貸」サイトにおきましても、当該サイトより問合せを行い、賃貸物件への入居が決定した利用者に対しキャッシュバックをしております。

(3) その他事業

当社では、コンサルティング業務及び新規事業等について、その他事業に分類しております。

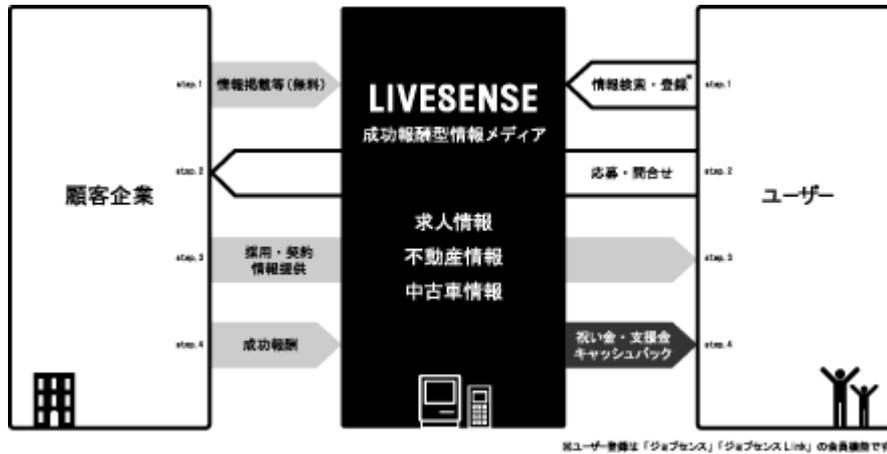
コンサルティング業務では、これまでのメディア運営によって蓄積したノウハウを活用することにより、「YAHOO! JAPAN」、「Google」などの検索エンジン対策を中心としたWebマーケティングに関する助言業務を行っております。当事業によって蓄積したノウハウは、メディア運営と相互補完されております。

また、新規事業につきましては、平成23年6月に成功報酬型中古車情報サイト「Motors-net」を立ち上げております。当該サイトは、中古車在庫情報をあらかじめサイトに掲載するのではなく、利用者が希望情報を登録すると中古車販売会社から提案を受けることができ、その結果購入契約がなされて初めて中古車販売会社より成功報酬を頂戴するビジネスモデルであります。中古車販売会社においては、情報掲載に係る手間が不要となる上、費用対効果の高いサービスとなっております。利用者におきましても、当該サイトを通して中古車購入契約を行った場合はキャッシュバックを受けられることとなっております。

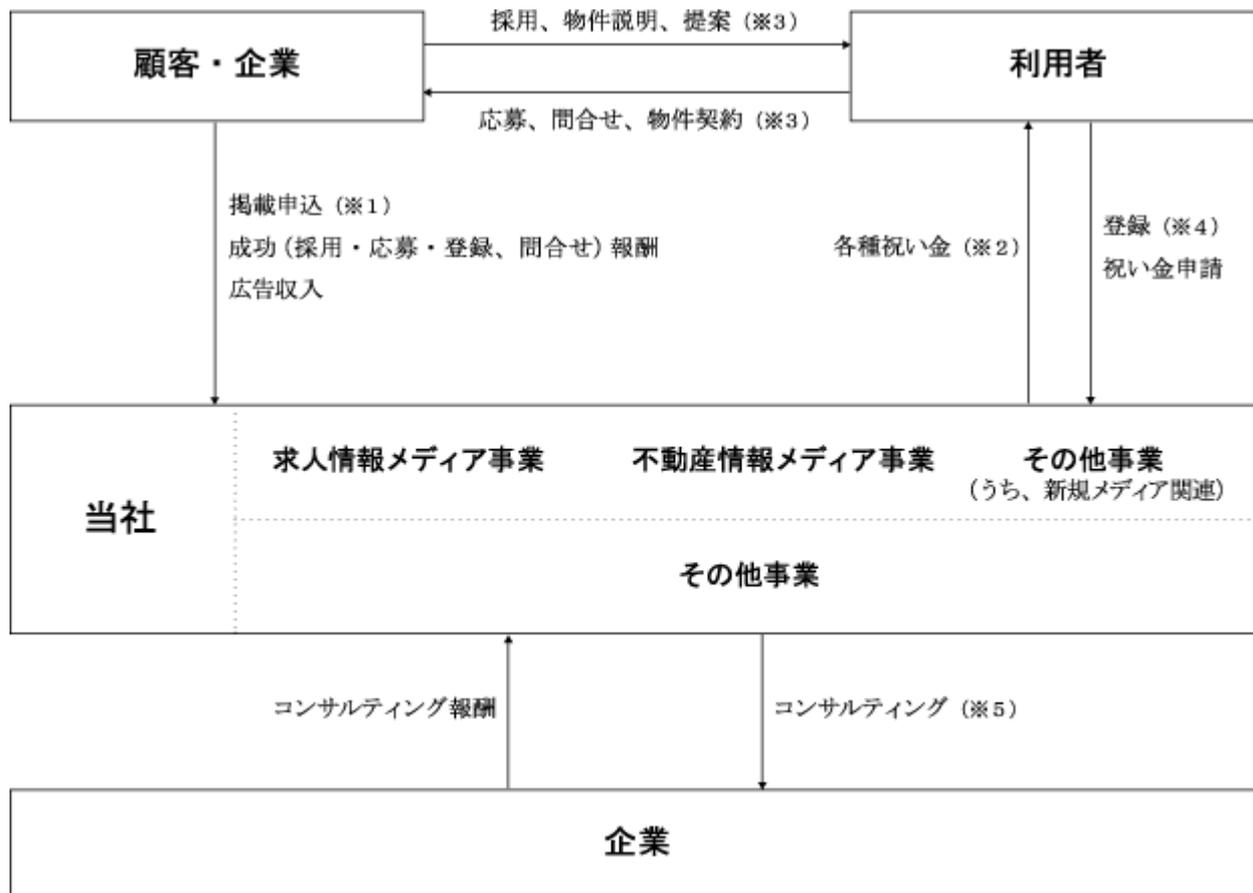
この他、当社初のCGM(Consumer Generated Media)として平成22年7月にサイトオープンし仮説検証を重ねてきた、転職クチコミサイト「転職会議」について、平成23年12月に会員機能をリニューアルしております。

なお、新規メディアに係る広告収入につきましても、その他事業に含まれております。

成功報酬型情報メディアの事業イメージ



事業系統図



- 1 成功報酬型ビジネスモデルを採用した「求人情報メディア」、「不動産情報メディア」、その他事業に含まれる新規事業の「中古車情報メディア」につきまして、初期費用や情報掲載費用等は発生いたしません。
- 2 「ジョブセンス」は「採用祝い金」、「ジョブセンスLink」は「転職祝い金」、「ジョブセンス派遣」は「登録祝い金」、「DOOR賃貸」及び「Motors-net」は「キャッシュバック」を贈呈しております。
- 3 「採用」及び「物件説明・契約」、「提案」につきましては、当社が直接関与しているものではありません。
- 4 利用者登録は、「ジョブセンス」及び「ジョブセンスLink」の会員機能です。
- 5 検索エンジン対策を中心としたWebマーケティングに関する助言業務を行っております。

4 【関係会社の状況】

該当事項はありません。

5 【従業員の状況】

(1) 提出会社の状況

平成23年12月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
42(19)	29.1	1.7	4,641

セグメントの名称	従業員数(名)
求人情報メディア事業	15(18)
不動産情報メディア事業	1()
その他事業	3(0)
全社(共通)	23(1)
合計	42(19)

- (注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数(パートタイム含む)は年間平均人員を()内にて外数で記載しております。
2. 平均年間給与は、基準外賃金を含んでおります。
3. 従業員数が前事業年度末に比べ16名増加しておりますが、主として業容拡大に伴う期中の採用によるものです。
4. 全社(共通)は、開発部門及び管理部門の従業員であります。

(2) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当事業年度におけるわが国経済は、東日本大震災の影響に加え、欧州の金融・債務不安を発端とした円高の進行、景気の減速など、総じて厳しい状況にありました。

当社が事業を展開するインターネット分野におきましては、日本のインターネット利用者のうち、一般世帯で固定的に利用されるブロードバンドのアクセスサービス契約数が平成23年9月末で3,587万件と前年比189万件増加しており、インターネット利用人口は継続的に増加しております（総務省公表値）。モバイルインターネットにつきましては、平成22年頃よりスマートフォン利用が本格化しており、契約数は平成23年3月末で955万件、平成24年3月末で2,598万件と前年比172%の増加が見込まれ、さらに平成28年3月末には7,030万件まで増加すると予測されており、スマートフォンの普及拡大に伴う新たなインターネットサービスの登場が期待されております（株式会社MM総研調べ）。

国内の雇用情勢におきましては、平成23年1月時点にて有効求人倍率0.61倍、完全失業率4.9%となっていた値が、平成23年12月時点にて有効求人倍率0.71倍、完全失業率4.6%となっており、依然として厳しいものの持ち直しの動きが見られております（総務省及び厚生労働省公表値）。

求人広告市場におきましては、平成23年の求人メディア全体（有料求人情報誌、フリーペーパー、折込求人紙、求人サイト）の求人広告件数が約43万8千件と前年比20.3%増加するなど、回復が見られました（全国求人情報協会「求人広告掲載件数等集計結果」）。

不動産関連市場につきましては、政府の住宅取得支援策の継続等もあり、平成23年の新設住宅着工戸数は、約83万4千戸と前年比2.6%増加し、底堅く推移しております（国土交通省公表値）。

当社は、このような事業環境のもと、「成功報酬型」ビジネスモデルの利点と、当社の持つ「Webマーケティング技術」や「サービス開発力」といった強みを活かし、求人情報メディアや不動産情報メディアを中心にサービスを提供しております。

当事業年度においては、当社運営サイトへの情報掲載企業の開拓、Webマーケティング技術を活用したサイト利用者の新規獲得及びサイト内検索スピードの高速化等のサイト利便性向上に注力して参りました。当社のサービスをご利用いただいている企業数は、当事業年度末時点で前年比6,781社増の13,218社と大幅に増加しております。この結果、当事業年度における売上高は前年同期比78.0%増の1,134,497千円と、当社の期初想定を上回り順調に増加いたしました。

費用面では、事業規模の拡大に伴う人員増加やオフィス増床による販売管理費の増加、株式上場に関わる営業外費用の計上等があったものの、売上規模の拡大が費用増を吸収し、経常利益は前年同期比133.6%増の508,043千円、当期純利益は前年同期比122.5%増の273,891千円と大幅増益となりました。

各事業の業績は、次のとおりであります。

a. 求人情報メディア事業

求人情報メディア事業においては、成功報酬型ビジネスモデルにて、アルバイト求人サイト「ジョブセンス」、正社員求人サイト「ジョブセンスLink」、派遣求人サイト「ジョブセンス派遣」の3サイトを運営しております。

当社では、掲載情報数の増加や掲載職種の拡大等を目的として、前事業年度よりテレマーケティングをはじめとした事業運営体制の強化を図って参りました。当事業年度は、こうした施策が奏功し、カスタマーサポートや新規・休眠顧客企業へのアプローチが可能となったことから、関東以外の地域や単一店舗企業との取引を含め顧客企業数が倍増し、求人情報掲載数は当事業年度末時点で51,939件と前事業年

度末比14,479件増加いたしました。

また、サイト改善につきましては、各サイトの検索機能拡充やデザイン変更による求人情報の検索性向上、「ジョブセンス」及び「ジョブセンスLink」における会員登録機能強化や求人紹介メールの配信による新規会員登録の促進など、サイト利用者の応募率向上を図りました。

以上の結果、当事業年度における売上高は1,004,769千円（前年同期比63.6%増）、セグメント利益は741,457千円（前年同期比78.5%増）となりました。

なお、各サイトの当事業年度における売上高は、次のとおりであります。

- ・ジョブセンス : 696,402千円
- ・ジョブセンスLink : 190,018千円
- ・ジョブセンス派遣 : 118,348千円

b. 不動産情報メディア事業

不動産情報メディア事業においては、平成22年4月より成功報酬型ビジネスモデルにて、賃貸情報サイト「DOOR賃貸」を運営しており、サイト利用者の獲得及び賃貸情報に対する問合せ率の向上に重点をおいた事業活動を行って参りました。

具体的には、当社の強みであるWebマーケティング技術を活かしたサイト改善や賃貸物件検索機能の強化に取り組み、サイトの利便性や利用者の問合せ率向上を図りました。また、掲載情報数を増加させる取り組みとして、新規導入企業の獲得、住宅・不動産情報ポータルサイト『HOME'S』を運営する株式会社ネクストとの業務提携などを行いました。当事業年度末における賃貸物件の掲載情報数は1,825,328件と前事業年度末比715,138件増加いたしました。

以上の結果、当事業年度における売上高は93,165千円（前年同期比949.4%増）、セグメント利益は73,291千円と、サービス開始より約1年で黒字化いたしました。

c. その他事業

その他事業においては、検索エンジン対策を中心としたWebマーケティングに関する助言業務、新規事業及び新規メディアに係る広告収入を分類しております。

新規事業につきましては、平成23年6月に成功報酬型中古車情報サイト「Motors-net」を立ち上げております。また、当社初のCGM(Consumer Generated Media)として、平成22年7月にサイトオープンし仮説検証を重ねてきた転職クチコミサイト「転職会議」について、平成23年12月に会員機能のリニューアルをしております。

以上の結果、当事業年度における売上高は36,562千円（前年同期比158.9%増）、セグメント利益は6,296千円（前年同期比8.8%減）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当事業年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は前事業年度末より778,310千円増加し、1,059,625千円となりました。当事業年度における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当事業年度において営業活動により得られた資金は、432,152千円（前事業年度は77,409千円の収入）となりました。

これは主に、税引前当期純利益498,325千円、売上債権の増加額60,910千円、法人税等の支払額78,775千円によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当事業年度において投資活動により使用した資金は54,558千円（前事業年度は31,385千円の支出）となりました。

これは主に、有形固定資産の取得による支出29,809千円、無形固定資産の取得による支出1,386千円、敷金及び保証金の差入による支出20,782千円、資産除去債務の履行による支出2,500千円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当事業年度において財務活動により得られた資金は400,717千円（前事業年度は計上をしておりません）となりました。

これは、株式の発行による収入409,860千円、株式の発行による支出4,773千円、株式公開費用の支出4,369千円によるものであります。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当社は、インターネットを利用したサービスの提供を事業としており、提供するサービスには生産に該当する事項がありませんので、生産実績に関する記載はしていません。

(2) 受注実績

生産実績と同様の理由により、受注実績に関する記載はしていません。

(3) 販売実績

当事業年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当事業年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)	
	販売高(千円)	前年同期比(%)
求人情報メディア事業	1,004,769	163.6
不動産情報メディア事業	93,165	1,049.4
その他事業	36,562	258.9
合計	1,134,497	178.0

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 【対処すべき課題】

当社は設立以来、成功報酬型ビジネスモデルを活用したメディア運営を中心に事業を行っており、過年度においては求人情報メディア事業に経営資源を集中して参りました。今後につきましては、事業方針として、既存事業の規模拡大に加え、新規事業展開による新たな収益源の確保が重要であると認識しております。

当社は、上記の内容を踏まえ以下の点に取り組んで参ります。

(1) 既存事業の収益機会の拡大

当社の主要事業である求人情報メディア事業は、これまで関東近郊において多店舗展開している企業を中心に事業展開しておりましたが、当社内におけるインフラ整備・強化が進んだことにより、関東以外の地域及び単一店舗企業に対しても事業展開に注力することが可能となりました。今後につきましては、当該企業層の開拓に取り組むことにより、収益機会の拡大を図って参ります。

(2) 新規事業展開による収益基盤の強化

当社は、成功報酬型ビジネスモデルを活用した新規事業展開として、平成22年4月より成功報酬型賃貸情報サイト「DOOR賃貸」のサービスを開始いたしました。当該サイトは、平成23年12月末現在、賃貸物件掲載数180万件を超える規模となっており、事業立ち上げからわずか1年余りでの黒字化を実現しております。今後は、希少物件の掲載や更なるサイト利便性の向上に注力し、業界トップクラスの賃貸情報サイトへ拡充させることにより、収益規模の拡大を図って参ります。また、「DOOR」ブランドによる新たな不動産関連サービスの開始も予定しております。

加えて、新規事業として、平成23年6月には成功報酬型中古車情報サイト「Motors-net」の立ち上げ、平成23年12月には転職クチコミサイト「転職会議」のリニューアルをしております。

当社は、成功報酬型ビジネスモデルの利点や当社が持つWebマーケティング技術、サービス開発力を活かして、引き続き新規事業の開発に積極的に取り組み事業領域を拡大させることで、収益基盤の強化を図って参ります。

(3) システムの安定性の確保

当社の主要事業におきましては、インターネット上にてサービス提供を行っている関係上、安定した事業運営を行うにあたり、新規事業等に伴うアクセス数の増加を考慮した、サーバー設備の強化、負分散システムの導入等が重要となるため、今後も設備投資等を継続的に行い、システムの安定性確保に取り組んで参ります。

(4) 組織体制の整備

今後の事業拡大及び収益基盤の強化を図るにあたり、専門性の高い優秀な人材の確保及び在籍する人員の育成に注力し、これまで同様、少人数での効率的な事業運営を意識しつつ、事業規模に応じた組織体制の整備を進めて参ります。

現状として、インターネットメディアの企画、開発、運営等の全業務を社内で一元的に実現できる組織を構築しており、開発・保守コストの低減と共にユーザーニーズに即したスピーディーな対応等が可能な組織となっております。今後につきましても、当該組織体制の維持・強化を図って参ります。

(5) 情報管理体制の強化

個人情報等の機密情報について、社内規程の厳格な運用、定期的な社内教育の実施、セキュリティシステムの整備等により、今後も引き続き、情報管理体制の強化を図って参ります。なお、当社は一般財団法人日本情報経済社会推進協会が運営するプライバシーマーク制度の認証を取得しており、情報管理の徹底を図っております。

(6) 当社ブランドの知名度向上

当社は、新聞・テレビ・雑誌等のマスメディア向け広告を実施しておらず、当社が持つWebマーケティング技術等の有効活用により、サイト利用者の獲得を図って参りました。

しかしながら、既存事業の更なる拡大及び競合企業との差別化を図るにあたり、当社ブランドのより一層の確立が重要であると認識しており、今後におきましては、費用対効果を慎重に検討の上、広告宣伝及びプロモーション活動を強化することで、「ジョブセンス」、「DOOR」等の当社ブランドの知名度向上を図って参ります。

4 【事業等のリスク】

以下において、当社の事業の状況及び経理の状況等に関する事項のうち、リスク要因となる可能性があると考えられる主な事項及びその他投資者の判断に重要な影響を及ぼすと考えられる事項を記載しております。また、必ずしもそのようなリスク要因に該当しない事項につきましても、投資家の投資判断上、重要であると考えられる事項につきましては、投資家に対する積極的な情報開示の観点から以下に開示しております。当社は、これらのリスク発生の可能性を十分に認識したうえで、発生の回避及び発生した場合の対応に取り組む方針ではありますが、当社株式に関する投資判断は、本項及び本書中の本項以外の記載事項を慎重に検討したうえで行われる必要があると考えております。

なお、以下の記載のうち将来に関する事項は、将来において発生の可能性があるすべてのリスクを網羅するものではありません。

1. インターネット市場に関するリスクについて

(1) インターネット関連市場について

当社は、インターネットメディア事業を主たる事業領域としていることから、スマートフォンやタブレット型端末機器の普及により、インターネットの利用環境が引続き整備されていくと共に、同関連市場が今後も拡大していくことが事業展開の基本条件であると考えております。

今後モバイルとPCの両面でより安価で快適にインターネットを利用できる環境が整い、情報通信や商業利用を含むインターネット関連市場は拡大を続けるものと想定しております。ただし、今後新たな法的規制の導入、技術革新の遅れ、利用料金の改定を含む通信事業者の動向など、当社の予期せぬ要因によりインターネット関連市場の発展が阻害される場合には、当社の事業及び業績に影響を与える可能性があります。

(2) 検索エンジンへの対応について

当社が運営するサイトの利用者の多くは、特定の検索エンジン（「YAHOO! JAPAN」、「Google」）からの集客であり、今後につきましても検索エンジンからの集客をより強化すべくSEO（検索エンジン最適化）を実施していく予定であります。

しかしながら、検索エンジンが検索結果を表示するロジックについて変更する等の何らかの要因により、これまでのSEOが有効に機能しなかった場合、当社サイトへの集客に影響が出てしまい、当社業績に重大な影響を及ぼす可能性があります。

(3) 技術革新について

インターネット業界は、技術革新や顧客ニーズの変化のサイクルが極めて早いのが特徴であり、新たなテクノロジーを基盤としたサービスの新規参入が相次いで行われております。当社は、このような急速に変化する環境に柔軟に対応すべく、オープンソースを含む先端的なテクノロジーの知見やノウハウの蓄積、さらには高度な技能を習得した優秀な技術者の採用を積極的に推進していく予定です。

しかしながら、先端的なテクノロジーに関する知見やノウハウの獲得又は蓄積になんらかの困難が生じ、技術革新に対する適切な対応が遅れ、システム投資及び人件費などかかる対応に多くの費用を要する場合があります。このような場合には、当社の技術的優位性やサービス競争力の低下を招き、当社の事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

(4) インターネット関連企業との競合について

当社は、インターネットメディア事業を主たる事業領域としておりますが、当該分野においては大手

企業を含む多くの企業が事業展開していることに加え、参入障壁も低く、競合が激しい状況にあります。

今後において十分な差別化や機能向上等が図られなかった場合や、新規参入等により競争が激化した場合には、当該事業及び当社の業績に影響を与える可能性があります。

2. 事業内容及び当社サービスに係わるリスクについて

(1) 求人情報メディア事業への依存について

当社の主たる収益は求人情報メディア事業による収入であります。平成23年12月期における売上高(1,134,497千円)に占める求人情報メディア事業の売上高比率は88.6%(1,004,769千円)であり、求人情報メディア事業への依存度は未だ高い状況にあります。従って、求人広告市場における他の媒体との競合激化などにより、求人情報メディア事業の売上高が減少した場合には、当社の業績に影響を与える可能性があります。

また、事業ポートフォリオの分散によってより安定的な収益基盤を確立するべく、新規事業の立ち上げに取り組んでおりますが、新規事業の立ち上げが当初の計画どおりに進まず、求人情報メディア事業に対する売上高の依存が低下しなかった場合、当事業の売上高の変動が当社の業績に大きく影響を与える可能性があります。

(2) 求人情報メディア事業の市場動向による業績推移について

求人情報メディア事業は、求人広告を中心とした事業展開を行っており、求人広告出稿企業の人員計画により業績変動の影響を受ける場合があります。そのため、当事業の運営に当たっては、新学期及び行楽シーズンなどによる求人ニーズの変動について認識しておりますが、計画を超えて上方又は下方へ変動した場合、当事業の業績に影響を与える可能性があります。

また、求人情報メディア事業は求人市場及び雇用情勢の動向による影響も受け易いため、関連する市況が上方又は下方へ変動した場合、当社の業績に影響を与える可能性があります。

(3) 求人情報メディア事業における不正行為について

求人情報メディア事業では、サービス利用者からの適切な申告を受けることによりサービスが成立しております。当該サービスは、サイト利用を無料とし成功報酬型にて費用を徴収しておりますが、成功報酬として費用発生する基準に達しても事実を隠ぺいする等の不正行為が発生する可能性があります。

当社では、このような不正行為に対してシステム面での防止策の設定、利用規約での禁止やユーザーへの啓蒙活動等を積極的に行うとともに、違反者には厳正な措置を行う等の対策をとる方針であります。しかしながら、万が一、不正行為の方法が当社の想定を超えて悪質であった場合には、当社の事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

(4) 不動産情報メディア事業の市場動向による業績推移について

不動産情報メディア事業は、賃貸物件などの広告を中心とした事業展開を行っている為、不動産管理会社の業績変動及び広告費予算などにより当事業の業績は影響を受ける場合があります。当事業の運営に当たっては、不動産業界特有の繁忙期等による集客ニーズの変動について認識しておりますが、計画を超えて上方又は下方へ変動した場合、当事業の業績に影響を与える可能性があります。

また、不動産情報メディア事業は不動産業界全般の景気、不動産業界に関連する規制等の動向による影響も受け易いため、関連する市況等が上方又は下方へ変動した場合、当社の業績に影響を与える可能

性があります。

(5) 新規事業について

当社では、今後も引き続き、積極的に新サービスないし新規事業に取り組んで参りますが、これによりシステム投資、広告宣伝費などの追加的な支出が発生し、利益率が低下する可能性があります。また、予測とは異なる状況が発生し新サービス、新規事業の展開が計画どおりに進まない場合、投資を回収できず、当社の事業及び業績に影響を与える可能性があります。

(6) 成功報酬及び祝い金について

当社では、採用等が確定した際や不動産広告への問合せが発生した際に、企業より成功報酬を頂戴する一方で、利用者に対しても「採用（転職、登録）祝い金」の贈呈もしくは入居者へのキャッシュバックをすることで、利用者に対するインセンティブを設けております。上記の成功報酬及び祝い金の金額については広告掲載時に企業が設定し、また各祝い金の支払いについては利用者からの申請に基づいて当社が支払いを行っております。従って、企業が設定する成功報酬額もしくは祝い金の金額の水準並びに利用者からの祝い金申請数が上方又は下方へ変動した場合、当社の業績に影響を与える可能性があります。

(7) サイト内の書き込みについて

当社は、当社運営サイト「転職会議」において、サイト閲覧者が企業の評判等を自由に書き込み、他の閲覧者に情報発信できるサービスを提供しております。「転職会議」には、転職希望者が志望する企業に関して表面的には得にくい有用な情報を閲覧できる一方で、企業に対する好意的な内容だけではなく、改良を要する点や主観的な意見等についても書き込みが行われます。当社では、サイト内の情報等について何ら責任を負わない旨をサイト内で明示するとともに、明らかに誹謗中傷等に該当する書き込みを発見した場合には、当該部分を削除するよう努力しております。

しかしながら、サイト閲覧者が誹謗中傷等を書き込み、当社がそれを発見できなかった場合、或いは発見が遅れた場合には、当該サイトに対するユーザー等の支持が低下したり、サイト運営者としての責任が問われたりすることにより、当社の業績に悪影響を与える可能性があります。

3. システムに関するリスクについて

(1) システム障害について

当社の事業は、パソコンやコンピュータシステムを結ぶ通信ネットワークに全面的に依存しており、自然災害や事故等によって通信ネットワークが切断された場合には、当社の事業及び業績は深刻な影響を受けます。また、サイトへの急激なアクセス増加や電力供給の停止等に対しては、サーバー設備の増強や自家発電設備のあるデータセンターの利用などといった対応を行っておりますが、予測不可能な様々な要因によってコンピュータシステムがダウンした場合、当社の事業及び業績に影響を与える可能性があります。

当社のコンピュータシステムは、適切なセキュリティ手段を講じて外部からの不正アクセスを回避するよう取り組んでおりますが、コンピュータウイルスやハッカーの侵入等によりシステム障害が生じた場合、当社の事業及び業績に影響を与える可能性があります。

(2) 事業拡大に伴う設備投資について

当社は、サービスの安定稼働やユーザー満足度の向上を図るためには、サービスの成長に即してシステムやインフラに対する先行投資を行っていくことが必要であると認識しております。今後予測されるユーザー数及びアクセス数の拡大並びに新サービスの導入及びセキュリティの向上に備えて継続的な設備投資を計画しておりますが、実際のユーザー数及びアクセス数が当初の予測から大幅に乖離する場合には、設備投資の前倒しや当初の計画よりも重い投資負担を行わなければならない、当社の事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

4. 法的規制及び知的財産等に関するリスクについて

(1) 個人情報保護について

当社は、求職者の応募情報等の個人情報を取得利用しているため、「個人情報の保護に関する法律」が定める個人情報取扱事業者としての義務を課されております。

当社は、個人情報の外部漏洩の防止はもちろん、不適切な利用、改ざん等の防止のため、個人情報の管理を事業運営上の重要事項と捉え、個人情報保護基本規程等を制定し、個人情報の取り扱いに関する業務フローを定めて厳格に管理するとともに、全従業員を対象として社内教育を徹底する等、同法及び関連法令並びに当社に適用される関連ガイドラインを遵守するとともに、個人情報の保護に積極的に取り組んでおります。

しかしながら、当社が保有する個人情報等につき漏洩、改ざん、不正使用等が生じる可能性が完全に排除されているとはいえません。従いまして、これらの事態が起こった場合、適切な対応を行うための相当なコストの負担、当社への損害賠償請求、当社の信用の低下等によって、当社の事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

(2) 知的財産権について

当社は、第三者の知的財産権侵害の可能性については調査可能な範囲で対応を行っておりますが、当社の事業分野で当社の認識していない知的財産権が既に成立している可能性又は新たに当社の事業分野で第三者により著作権等が成立する可能性があります。このような場合においては、当社が第三者の知的財産権等を侵害したことによる損害賠償請求や差止請求等、又は当社に対するロイヤリティの支払い要求等を受けることにより、当社の事業及び業績に影響を与える可能性があります。

(3) 法的規制等について

当社事業を規制する主な法規制として、「電気通信事業法」、「特定電気通信役務提供者の損害賠償責任の制限及び発信者情報の開示に関する法律」（以下「プロバイダ責任制限法」という。）及び「不正アクセス行為の禁止等に関する法律」（以下、「不正アクセス禁止法」という。）があります。

電気通信事業法については、通信の秘密の保護等の義務が課されております。また、当社は、プロバイダ責任制限法における「特定電気通信役務提供者」に該当し、不特定の者によって受信されることを目的とする電気通信による情報の流通において他人の権利の侵害があった場合に、権利を侵害された者に対して、権利を侵害した情報を発信した者に関する情報の開示義務を課されております。また、権利を侵害した情報を当社が媒介したことを理由として、民法の不法行為に基づく損害賠償請求を受ける可能性もあり、これらの点に関し訴訟等の紛争が発生する可能性もあります。

不正アクセス禁止法については、「アクセス管理者」として、努力義務ながら不正アクセス行為からの一定の防御措置を講ずる義務が課されております。

その他、インターネット関連事業を規制する法令は徐々に整備されてきている状況にあり、今後、インターネットの利用や関連するサービス及びインターネット関連事業を営む事業者を規制対象として、新たな法令等の制定や、既存法令等の解釈変更等がなされた場合には、当社の事業及び業績に影響を与える可能性があります。

(4) その他紛争の可能性について

当社は、取締役会、コンプライアンス委員会及びコーポレート・ガバナンスへの取り組みから当社の事業展開に係わる紛争可能性について調査及び検討を行っております。

しかし、今後において、当社に対して予測を超える分野及び権利等について訴訟が行われる可能性があります。該当する紛争について、当社事業に影響を及ぼす可能性は低いものと認識しておりますが、将来において当社の事業展開に係わる内容について侵害しているものと判断される可能性は否定できず、その場合には当社の事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

5. 事業運営体制に係わるリスクについて

(1) 組織体制及び人材の確保・育成について

当社の組織体制は、小規模であり業務執行体制もそれに準じたものとなっております。当社は、今後の事業展開に応じて、従業員の育成及び人員の採用を行うとともに業務執行体制の充実を図っていく方針であります。

しかしながら、人材の確保が思うように進まない場合や、社外流出等何らかの事由によりこれらの施策が計画どおりに進行しなかった場合には、当社の事業及び業績に影響を与える可能性があります。

(2) 内部管理体制について

当社は、平成18年2月に設立し、未だ業歴が浅く成長途上にあるため、今後の事業及び経営成績を予測する上で必要な経験などが十分に蓄積されていないと考えております。当社では、今後の事業運営及び事業拡大に対応するため、内部管理体制について一層の充実を図る必要があると認識しております。

しかしながら、事業規模に適した内部管理体制の構築に遅れが生じた場合、又は、見込みと異なる推移となった場合は、当社の事業及び業績に影響を与える可能性があります。

(3) 当社取締役への依存について

代表取締役社長である村上太一及び取締役ディベロップメント本部長である桂大介は、当社の創業者であり、創業以来取締役を務めております。両氏は、インターネット関連事業及びWebマーケティング等に関する豊富な経験と知識を有しており、経営方針や事業戦略の決定及びその遂行において極めて重要な役割を果たしております。当社は、取締役会等における役員及び幹部社員の情報共有や経営組織の強化を図り、両氏に過度に依存しない経営体制の整備を進めておりますが、何らかの理由により両氏のうちいずれかが当社の業務を継続することが困難となった場合、当社の事業及び業績に影響を与える可能性があります。

6. その他

(1) 配当政策について

当社は、株主に対する利益還元を経営課題と認識しており、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況を勘案し、利益還元政策を決定していく所存であります。しかしながら、当社は当期純利益を計上しておりますが、未だ内部留保が充実しているとはいえ、創業以来配当を行っておりませ

ん。また、当社は現在、成長過程にあると考えており、内部留保の充実を図り、事業の効率化と事業拡大のための投資等に充当し、なお一層の事業拡大を目指すことが、株主に対する最大の利益還元につながると考えております。

将来的には、各期の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況を勘案し、株主に対して利益還元を行うことを検討して参りますが、現時点において配当実施の可能性及びその実施時期等については未定であります。

(2) 新株予約権の行使による株式価値の希薄化について

当社は、当社役員及び従業員に対するインセンティブを目的とし、新株予約権(以下「ストック・オプション」という。)を付与しております。これらのストック・オプションが権利行使された場合、当社株式が新たに発行され、既存の株主が有する株式の価値及び議決権割合が希薄化する可能性があります。本書提出日現在、これらのストック・オプションによる潜在株式数は74,600株であり、発行済株式総数3,450,000株の2.16%に相当しております。

5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6 【研究開発活動】

該当事項はありません。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当事業年度末現在において当社が判断したものであります。

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社の財務諸表は、我が国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。その作成には、経営者による会計方針の選択・適用、資産・負債及び収益・費用の報告金額及び開示に影響を与える見積りを必要としております。経営者は、これらの見積りについて、過去の実績等を勘案し合理的に判断しておりますが、実際の結果は、見積りによる不確実性のため、これらの見積りと異なる場合があります。

(2) 財政状態の分析

(流動資産)

当事業年度末における流動資産につきましては、前事業年度末に比べ854,012千円増加し、1,229,634千円となりました。

これは主に、「現金及び預金」の増加（前事業年度末比778,310千円増）、「売掛金」の増加（前事業年度末比60,766千円増）等によるものであります。

(固定資産)

当事業年度末における固定資産につきましては、前事業年度末に比べ32,559千円増加し、94,308千円となりました。

これは主に、「建物」の増加（前事業年度末比8,254千円増）、「敷金及び保証金」の増加（前事業年度末比20,488千円増）等によるものであります。

(流動負債)

当事業年度末における流動負債につきましては、前事業年度末に比べ202,928千円増加し、270,282千円となりました。

これは主に、「未払金」の増加（前事業年度末比12,007千円増）、「未払法人税等」の増加（前事業年度末比164,862千円増）、「未払消費税等」の増加（前事業年度末比17,381千円増）等によるものであります。

(固定負債)

当事業年度末における固定負債につきましては、前事業年度末に比べ107千円減少いたしました。

これは、「繰延税金負債」の減少（前事業年度末比107千円減）によるものであります。

(純資産)

当事業年度末における純資産につきましては、前事業年度末に比べ683,751千円増加し、1,053,660千円となりました。

これは、「資本金」の増加（前事業年度末比204,930千円増）、「資本準備金」の増加（前事業年度末比204,930千円増）、「利益剰余金」の増加（前事業年度末比273,891千円増）によるものであります。

(3) 経営成績の分析

(売上高)

当事業年度における売上高につきましては、前事業年度に比べ497,299千円増加し、1,134,497千円となりました。

求人情報メディア事業及び不動産情報メディア事業の各サイトへの情報掲載企業の開拓、Webマーケティング技術を活用したサイト利用者の新規獲得及びサイト内検索スピードの高速化等のサイト利便性向上に取り組んだことによるものであります。

(売上原価)

当事業年度における売上原価につきましては、前事業年度に比べ37,349千円増加し、161,785千円となりました。

これは主に、採用祝い金の増加によるものであります。

(販売費及び一般管理費、営業利益)

当事業年度における販売費及び一般管理費につきましては、前事業年度に比べ158,613千円増加し、453,947千円となりました。

これは主に、事業規模拡大に伴う人件費の増加及び本社移転に伴う地代家賃の増加によるものであります。

この結果、営業利益は前事業年度に比べ301,336千円増加し、518,764千円となりました。

(営業外収益、営業外費用及び経常利益)

当事業年度における営業外収益につきましては、303千円となりました。

主な内容は、銀行預入資金に係る受取利息及び消費税等調整額であります。

また、営業外費用につきましては、11,023千円となりました。

内容は、公募増資に伴う株式交付費及び新規上場に伴う株式公開費用であります。

この結果、経常利益は前事業年度に比べ209,528千円増加し、508,043千円となりました。

(特別利益、特別損失及び当期純利益)

当事業年度における特別損失につきましては、9,718千円となりました。

主な内容は、本社移転費用、本社移転に伴う固定資産の臨時償却費及び災害による損失であります。

この結果、税引前当期純利益は前事業年度に比べ290,287千円増加し、498,325千円となりました。

また、法人税、住民税及び事業税（法人税等調整額を含む）は、224,433千円であります。

この結果、当期純利益は前事業年度に比べ150,821千円増加し、273,891千円となりました。

(4) キャッシュ・フローの分析

当事業年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は前事業年度末より778,310千円増加し、1,059,625千円となりました。当事業年度における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当事業年度において営業活動により得られた資金は、432,152千円（前事業年度は77,409千円の収入）となりました。

これは主に、税引前当期純利益498,325千円、売上債権の増加額60,910千円、法人税等の支払額78,775

千円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当事業年度において投資活動により使用した資金は54,558千円(前事業年度は31,385千円の支出)となりました。

これは主に、有形固定資産の取得による支出29,809千円、無形固定資産の取得による支出1,386千円、敷金及び保証金の差入による支出20,782千円、資産除去債務の履行による支出2,500千円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当事業年度において財務活動により得られた資金は400,717千円(前事業年度は計上をしておりません)となりました。

これは、株式の発行による収入409,860千円、株式の発行による支出4,773千円、株式公開費用の支出4,369千円によるものであります。

(5) 経営戦略の現状と見通し

当社は、設立以来、成功報酬型ビジネスモデルを活用したインターネットメディア運営に注力し、事業を展開して参りました。平成23年12月末現在、成功報酬型アルバイト情報サイト「ジョブセンス」を始めとする求人情報メディア事業並びに平成22年4月より開始いたしました成功報酬型賃貸情報サイト「DOOR賃貸」の不動産情報メディア事業を中心に運営しております。また、平成23年6月には新規事業として成功報酬型中古車情報サイト「Motors-net」の立ち上げ、平成23年12月には転職クチコミサイト「転職会議」のリニューアルをしております。

現在の主力事業である求人情報メディア事業は、景気の変動等により業績が上方又は下方へ影響を受けやすい傾向にある為、安定的な成長を実現するにあたり、新規分野への事業進出が重要課題であると考
えております。

今後につきましては、既存事業における事業規模拡大に加え、安定的かつ継続的な成長を実現するため、成功報酬型ビジネスモデルを発展的に活用することで、積極的な事業領域の拡大を図って参ります。また、当社がこれまで培ってきたWebマーケティング技術やサービス開発力を活かして、CGM(Consumer Generated Media)やソーシャルメディアといった新サービスの研究開発を推進し、効率的かつスピード感を持って、ユーザーニーズを捉えたユニークなサービスの創出に取り組んで参ります。

(6) 経営成績に重要な影響を与える要因について

当社の財政状態及び経営成績に重要な影響を与える要因につきましては、「第2 事業の状況 4 事業等のリスク」に記載の通りであります。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当事業年度の設備投資等の総額は29,418千円であります。その主な内容は、本社移転に伴う固定資産の取得28,594千円であります。

また、上記本社移転に伴い当事業年度において、固定資産の臨時償却6,721千円を行なっております。

なお、当事業年度において重要な設備の除却、売却等はありません。

2 【主要な設備の状況】

平成23年12月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(千円)			従業員数 (名)
			建物	工具、器具 及び備品	合計	
本社 (東京都渋谷区)	求人情報メディア事業 不動産情報メディア事業 その他事業 全社(共通)	業務設備	14,408	24,997	39,405	42(19)

(注) 1. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

2. 現在休止中の主要な設備はありません。

3. 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数(パートタイム含む)は年間平均人員を()内にて外数で記載しております。

4. 本社の建物を賃借しております。地代家賃は28,565千円であります。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

平成23年12月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	投資予定額(千円)		資金調達 方法	着手年月	完成予定 年月	完成後の 増加能力
			総額	既支払額				
本社 (東京都渋谷区)	求人情報メディア事業	サーバー機器等	15,000		自己資金	平成24年 3月	平成26年 12月	既存サービスの 改良
本社 (東京都渋谷区)	不動産情報 メディア事業	サーバー機器等	15,000		自己資金	平成24年 3月	平成26年 12月	既存サービスの 改良
本社 (東京都渋谷区)	その他事業	事業用ソフト ウェア及び サーバー機器 等	123,000		自己資金	平成24年 1月	平成26年 12月	既存サービスの 改良
本社 (東京都渋谷区)	全社(共通)	社内基幹 システム	25,000		自己資金	平成24年 3月	平成26年 12月	業務効率 の向上

(注) 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

(2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	12,000,000
計	12,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成23年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成24年3月28日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	3,450,000	3,450,000	東京証券取引所 (マザーズ)	完全議決権株式であり、株主 としての権利内容に何ら限定の ない当社における標準となる 株式であります。また、1単元 の株式数は、100株となってお ります。
計	3,450,000	3,450,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

平成23年3月29日開催定時株主総会特別決議（平成23年7月13日の取締役会決議）

	事業年度末現在 (平成23年12月31日)	提出日の前月末現在 (平成24年2月29日)
新株予約権の数(個)	373	373
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)		
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	74,600 (注) 1、2	74,600 (注) 1、2
新株予約権の行使時の払込金額(円)	210 (注) 1、3	同左
新株予約権の行使期間	平成25年7月15日～ 平成33年3月29日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 210 資本組入額 105 (注) 1	同左
新株予約権の行使の条件	<p>新株予約権者が権利行使時において、当社又は当社子会社及び当社関連会社の取締役、監査役、従業員のいずれかの地位を保有している場合に行使することができる。</p> <p>ただし、取締役会より特例として権利行使を認める旨の書面による承認を事前に得た場合はこの限りではない。</p> <p>その他の条件は、株主総会及び取締役会決議に基づき、当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約書」に定めるところによる。</p>	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	<p>新株予約権を譲渡により取得する場合は、取締役会の承認を要する。</p> <p>ただし、租税特別措置法による優遇税制を受ける場合には、譲渡することができないものとする。</p>	同左
代用払込みに関する事項		
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注) 4	同左

(注) 1 . 平成23年8月11日開催の取締役会決議に基づき、平成23年9月27日を基準日として平成23年9月28日付で普通株式1株を200株に分割しているため、新株予約権1個当たりの新株予約権の目的となる株式数は200株となります。上表の「新株予約権の目的となる株式の数」、「新株予約権の行使時の払込金額」、「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額」は、調整後の内容となっております。

2. 新株予約権の割当日後、当社が株式分割、株式併合を行う場合は、次の算式により付与株式数を調整、調整の結果生じる1株未満の端数は、これを切り捨てる。

$$\text{調整後付与株式数} = \text{調整前付与株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

3. 新株予約権発行後、当社が株式分割又は株式併合を行う場合、次の算式により払込金額を調整し、調整により生じる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後払込金額} = \text{調整前払込金額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、当社が時価を下回る価額で募集株式を発行する場合又は自己株式を処分する場合（新株予約権の行使により新株を発行する場合は除く。）は、次の算式により1株当たりの払込金額を調整し、調整により生じる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後払込金額} = \text{調整前払込金額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新株発行(処分)株式数} \times \text{1株当たり払込金額}}{\text{1株当たり時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新株発行(処分)株式数}}$$

4. 組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項

当社は、当社が会社法第236条第1項第8号イからホまでに掲げる行為（以下、「組織再編成行為」という。）を行う場合には、組織再編成行為の効力発生の時点において残存する新株予約権の新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号イからホまでに掲げる株式会社の新株予約権を一定の条件に基づきそれぞれ交付するものとする。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成20年10月15日 (注) 1	240	300	12,000	15,000	-	-
平成21年11月7日 (注) 2	14,700	15,000	-	15,000	-	-
平成23年9月28日 (注) 3	2,985,000	3,000,000	-	15,000	-	-
平成23年12月6日 (注) 4	450,000	3,450,000	204,930	219,930	204,930	204,930

(注) 1. 有償株主割当増資 1:4

発行価格 50,000円、資本組入額 50,000円

2. 株式分割 (1:50)

3. 株式分割 (1:200)

4. 有償一般募集(ブックビルディング方式)

発行価格 990円 引受価額 910.8円

発行価額 409,860千円 資本組入額 455.4円

(6) 【所有者別状況】

平成23年12月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)		4	13	18	12	5	1,634	1,686	
所有株式数(単元)		496	332	519	1,576	16	31,557	34,496	400
所有株式数の割合(%)		1.44	0.96	1.50	4.57	0.05	91.48	100.00	

(7) 【大株主の状況】

平成23年12月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
村上 太一	東京都大田区	2,081,800	60.34
桂 大介	東京都渋谷区	380,000	11.01
吉田 健太郎	東京都渋谷区	135,000	3.91
バンク オブ ニューヨーク ジーシーエム クライアント アカун ト ジェイピーアールデイ アイエスジー エフイー - エイシー (常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行)	PETERBOROUGH COURT 133 FLEET STREET LONDON EC4A 2BB UNITED KINGDOM (東京都千代田区丸の内2丁目7-1)	67,200	1.94
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	48,100	1.39
株式会社舩岡秀樹事務所	東京都杉並区阿佐ヶ谷南1丁目8-3	32,000	0.92
ドイツェ バンク アーゲー ロンドン 610 (常任代理人 ドイツ証券株式会社)	TAUNUSANLAGE 12, D-60325 FRANKFURT AM MAIN, FEDERAL REPUBLIC OF GERMANY (東京都千代田区永田町2丁目11番1号)	23,800	0.68
ドイツェ バンク アーゲー ロンドン ピービー ノントリティー クライアン ツ 613 (常任代理人 ドイツ証券株式会社)	TUNUSANLAGE 12, D-60325 FRANKFURT AM MAIN, FEDERAL REPUBLIC OF GERMANY (東京都千代田区永田町2丁目11番1号)	17,900	0.51
クレディ・スイス・セキュリティーズ (ユーエスエー)エルエルシー エスピーシーエル・フォー イーエックスシーエル・ピーイーエヌ (常任代理人 クレディ・スイス証券株式会社)	ELEVEN MADISON AVENUE NEW YORK NY 10010-3629 USA (東京都港区六本木1丁目6番1号)	16,700	0.48
若林 貴子	東京都文京区	15,000	0.43
計		2,817,500	81.66

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成23年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)			
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,449,600	34,496	
単元未満株式	普通株式 400		
発行済株式総数	3,450,000		
総株主の議決権		34,496	

【自己株式等】

該当事項はありません。

(9) 【ストックオプション制度の内容】

当社は、新株予約権方式によるストックオプション制度を採用しております。

当該制度は、会社法第236条、第238条及び第239条の規定に基づき、新株予約権を発行する方法によるものです。

当該制度の内容は、次のとおりであります。

平成23年3月29日開催定時株主総会特別決議（平成23年7月13日の取締役会決議）

決議年月日	平成23年7月13日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役1名、従業員27名
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2)新株予約権等の状況」に記載しております。
株式の数	同上
新株予約権の行使時の払込金額	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	「(2)新株予約権等の状況」に記載しております。

平成23年3月29日開催定時株主総会特別決議（平成24年3月23日の取締役会決議）

決議年月日	平成24年3月23日
付与対象者の区分及び人数	当社従業員17名
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
株式の数	10,200株（注）1、2
新株予約権の行使時の払込金額	210円（注）1、3
新株予約権の行使期間	平成26年3月27日～ 平成33年3月29日
新株予約権の行使の条件	新株予約権者が権利行使時において、当社又は当社子会社及び当社関連会社の取締役、監査役、従業員のいずれかの地位を保有している場合に行使することができる。 ただし、取締役会より特例として権利行使を認める旨の書面による承認を事前に得た場合はこの限りではない。 その他の条件は、株主総会及び取締役会決議に基づき、当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約書」に定めるところによる。
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡により取得する場合は、取締役会の承認を要する。 ただし、租税特別措置法による優遇税制を受ける場合には、譲渡することができないものとする。
代用払込みにに関する事項	
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	（注）4

（注）1．平成23年8月11日開催の取締役会決議に基づき、平成23年9月27日を基準日として平成23年9月28日付で普通株式1株を200株に分割しているため、新株予約権1個当たりの新株予約権の目的となる株式数は200株となります。上表の「株式の数」、「新株予約権の行使時の払込金額」は、調整後の内容となっております。

- 2．新株予約権の割当日後、当社が株式分割、株式併合を行う場合は、次の算式により付与株式数を調整、調整の結果生じる1株未満の端数は、これを切り捨てる。

$$\text{調整後付与株式数} = \text{調整前付与株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

- 3．新株予約権発行後、当社が株式分割又は株式併合を行う場合、次の算式により払込金額を調整し、調整により生じる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後払込金額} = \text{調整前払込金額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、当社が時価を下回る価額で募集株式を発行する場合又は自己株式を処分する場合（新株予約権の行使により新株を発行する場合は除く。）は、次の算式により1株当たりの払込金額を調整し、調整により生じる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後払込金額} = \text{調整前払込金額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新株発行(処分)株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{1 \text{株当たり時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新株発行(処分)株式数}}$$

- 4．組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項

当社は、当社が会社法第236条第1項第8号イからホまでに掲げる行為（以下、「組織再編成行為」という。）を行う場合には、組織再編成行為の効力発生の時点において残存する新株予約権の新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号イからホまでに掲げる株式会社の新株予約権を一定の条件に基づきそれぞれ交付するものとする。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 該当事項はありません。

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

該当事項はありません。

3 【配当政策】

当社は、財務体質の強化と事業拡大の為の内部留保の充実等を図ることが重要であると考え、過去において配当を行っておりませんが、株主に対する利益還元も経営の重要課題であると認識しております。

今後の配当政策の基本方針としましては、収益力の強化や事業基盤の整備を実施しつつ、内部留保の充実状況及び企業を取り巻く事業環境を勘案したうえで、株主に対して安定的かつ継続的な利益還元を実施する方針であります。内部留保資金につきましては、事業拡大を目的とした中長期的な事業原資として利用していく予定であります。

なお、剰余金の配当を行う場合、年1回の期末配当を基本方針としており、配当の決定機関は株主総会となっております。また、当社は中間配当を取締役会の決議によって行うことができる旨を定款に定めております。

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第2期	第3期	第4期	第5期	第6期
決算年月	平成19年12月	平成20年12月	平成21年12月	平成22年12月	平成23年12月
最高(円)					3,275
最低(円)					1,788

- (注) 1. 最高・最低株価は、東京証券取引所マザーズ市場における株価を記載しております。
2. 当社株式は、平成23年12月7日から東京証券取引所マザーズ市場に上場しております。それ以前については、該当事項はありません。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成23年7月	8月	9月	10月	11月	12月
最高(円)						3,275
最低(円)						1,788

- (注) 1. 最高・最低株価は、東京証券取引所マザーズ市場における株価を記載しております。
2. 当社株式は、平成23年12月7日から東京証券取引所マザーズ市場に上場しております。それ以前については、該当事項はありません。

5 【役員 の 状 況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
代表取締役社長	-	村上 太一	昭和61年10月27日	平成18年2月	当社設立 代表取締役社長(現任)	(注)2	2,081,800
取締役	ディベロップメント本部長	桂 大介	昭和60年6月23日	平成18年2月 平成22年5月	当社設立 取締役(現任) 当社 ディベロップメント本部長(現任)	(注)2	380,000
取締役	経営管理本部長	岩崎 優一	昭和46年10月25日	平成8年12月 平成10年3月 平成13年8月 平成14年8月 平成19年4月 平成21年7月 平成21年11月	(株)橋本会計入社 スマイル音楽出版(株)入社 (株)インボイス入社 (株)ゴンゾ・ディジメーション・ホールディング(現株)ゴンゾ)入社 (株)セントリックス入社 当社入社 経営管理本部長(現任) 当社 取締役(現任)	(注)2	-
常勤監査役		江原 準一	昭和40年6月1日	昭和60年4月 平成3年3月 平成6年9月 平成9年3月 平成18年2月 平成20年9月 平成22年5月	(株)あさくま 入社 谷古宇公認会計士事務所 入所 (株)永井興商 入社 (株)カブキ印刷 入社 (株)サンフィニティ 入社 当社 入社 当社 常勤監査役(現任)	(注)3	-
監査役		阿久津 操	昭和33年1月15日	昭和55年4月 平成7年6月 平成9年8月 平成11年7月 平成11年11月 平成14年3月 平成16年3月 平成18年2月 平成18年3月 平成21年3月	(株)日本リクルートセンター(現株)リクルート) 入社 (株)エイブル入社 人事部長 (株)ブラザクリエイト入社 人事部長 (株)バックスグループ入社 総務部長 イマックス・アルファ(株) 監査役(現任) (株)アパマンショップネットワーク入社 人事部長 (株)ココブリーズ設立 代表取締役(現任) (株)博展 監査役 (株)シングルルート 監査役(現任) 当社 監査役(現任)	(注)3	12,000
監査役		尾崎 充	昭和39年9月29日	平成元年10月 平成5年9月 平成5年10月 平成10年4月 平成16年7月 平成17年9月 平成20年9月 平成21年7月 平成21年9月 平成23年6月	KPMGビートマーウィック港監査法人(現有限責任 あずさ監査法人) 入社 公認会計士登録 中島公認会計士税理士事務所 入所 尾崎公認会計士税理士事務所設立 所長(現任) アクティベートジャパン税理士法人設立 所長(現任) アクティベートジャパン公認会計士事務所設立 所長(現任) 協立監査法人 入社 (株)キタセツ 監査役(現任) (株)ワードトレーダーズ 監査役(現任) (株)イメージ・マジック 監査役(現任) 当社 監査役(現任) (株)コスバクリエーション 監査役(現任) (株)tuth 監査役(現任)	(注)3	12,000
計							2,485,800

- (注) 1. 監査役 阿久津操、尾崎充は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
2. 取締役の任期は、平成23年9月28日開催の臨時株主総会の終結の時から、平成24年12月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
3. 監査役の任期は、平成23年9月28日開催の臨時株主総会の終結の時から、平成26年12月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

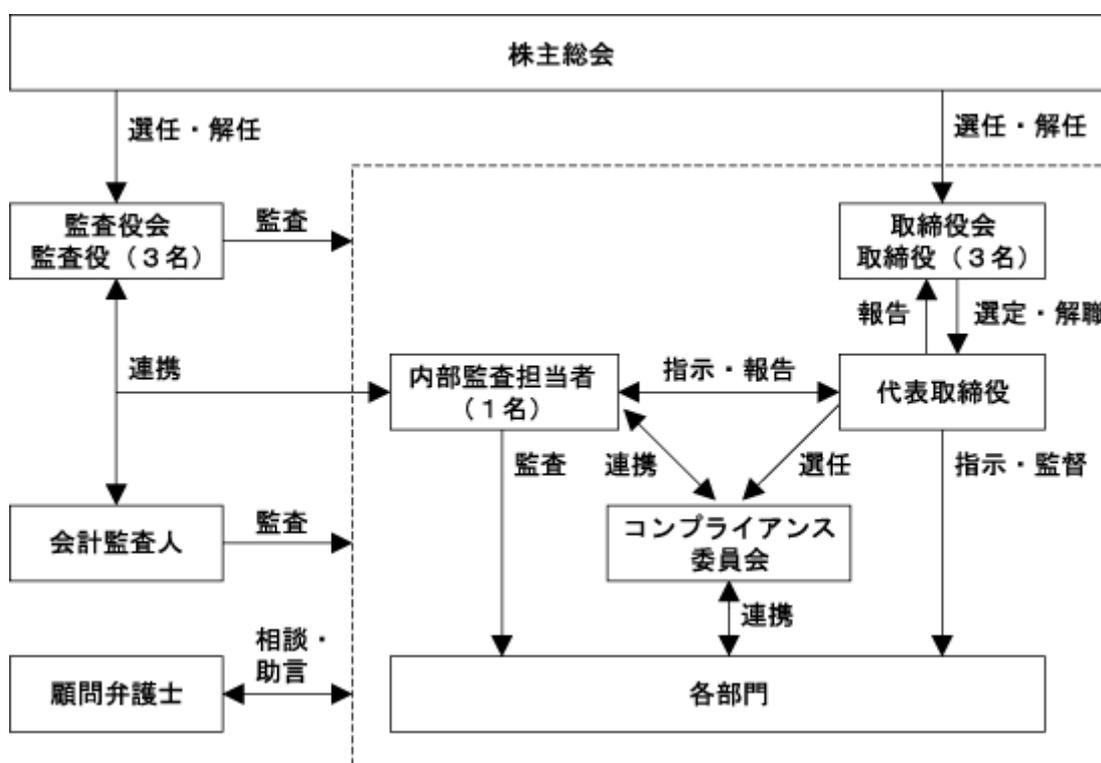
コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、当社サービスをご利用下さるお客様はもちろん、株主や投資家の皆様、お取引先等の本質的な需要を満たし、社会に貢献するサービスを提供することで、あらゆるステークホルダーから当社に対して継続的な信頼を得ることが重要であると認識しております。

当該認識のもと、当社の取締役、監査役、従業員は、それぞれが求められる役割を理解し、法令、社会規範、倫理などについて継続的に意識の維持向上を図り、適正かつ効率的な経営活動に取り組みながら、コーポレート・ガバナンスの充実に努めております。

企業統治の体制の状況

当社の機関及び内部統制の概要



a. 取締役及び取締役会

当社の取締役会は、取締役3名により構成されており、法定事項の決議、経営に関する重要事項の決定及び業務執行の監督等を行っております。毎月1回の定時取締役会を開催するほか、迅速かつ的確な意思決定を確保する為、必要に応じて臨時取締役会を開催しております。

b. 監査役及び監査役会

当社は、監査役会制度を採用しており、毎月1回の監査役会を開催しております。当社の監査役会は、監査役3名(うち社外監査役2名)により構成されており、当社の経営に対する監視並びに取締役の業務執行の適法性について監査を行っております。

また、常勤監査役は取締役会へ出席すると共に社内の重要な会議へ出席するなど、監査機能がより有効・適切に機能するよう努めております。

c．当該企業統治体制を採用する理由

当社におきましては、透明性の高い意思決定、機動的な業務執行並びに適正な監査に対応できる体制の構築を図るため、当該統治体制を採用しております。

内部統制システムの整備の状況

当社におきましては、「内部統制に関する基本方針」を制定すると共に各種社内規程を整備し、役職員の責任の明確化を行うことで規程遵守の徹底を図り、内部統制システムが有効に機能する体制を確保しております。

内部監査、監査役監査及び会計監査の状況

a．内部監査及び監査役監査

内部監査につきましては、代表取締役社長直轄の内部監査担当者1名が内部監査業務を実施しております。年間の内部監査計画に則り全部門に対して監査を実施し、監査結果については代表取締役社長に都度報告する体制となっております。

監査役監査につきましては、監査役監査計画にて定められた内容に基づき監査を行い、原則として月1回開催される監査役会において情報共有を図っております。

b．会計監査

当社の会計監査業務を執行した公認会計士は、松本保範氏及び水野雅史氏であり、有限責任監査法人トーマツに所属しております。また、会計監査業務にかかる補助者の構成は、公認会計士4名、会計士補等5名、その他1名であります。なお、継続監査年数が7年以内の為、年数の記載を省略しております。

c．内部監査、監査役監査及び会計監査の相互連携並びに内部統制部門との関係

監査役は定期的に内部監査担当者と共に会計監査人と意見交換等を行っており、相互の連携を強化することで、適正な監査が実施できる環境を整備しております。また、内部統制部門は、各担当者と情報交換をすることで、内部統制システムの継続的な改善、整備を実施しております。

リスク管理体制の整備の状況

当社は、経営管理本部が主管部署となり、各部門との情報共有を行うことで、リスクの早期発見と未然防止に努めると共に、外部の顧問弁護士等の専門家を通報窓口とする内部通報制度を制定しております。組織的または個人的な法令違反ないし不正行為に関する通報等について、適正な処理の仕組みを定めることにより、不正行為等による不祥事の防止及び早期発見を図っております。

また、法令遵守体制の構築を目的として「コンプライアンス規程」を定め、役員及び社員の法令及び社会規範の遵守の浸透、啓発を図っております。推進にあたっては、代表取締役社長を委員長とする「コンプライアンス委員会」を設置し、定期的に施策の確認等を実施しております。

社外取締役及び社外監査役

当社は、社外取締役を選任しておりませんが、監査役3名中2名を社外監査役とすることで、取締役会の牽制及び監視機能を強化しております。社外監査役を含む監査役会は、内部監査担当者及び会計監査人との意見交換等により相互の連携を図りながら、適正かつ効果的な監査実施の為の環境整備を行っております。

なお、社外監査役におきましては、人材業界、不動産業界における豊富な実務経験並びに公認会計士としての専門的立場からの助言、牽制及び監視を期待しており、原則として毎月1回開催される当社取締役会に出席し、意思決定及び業務執行等について監視を行なっております。

また、社外監査役2名は、当社との間に人的関係、資本的関係、取引関係その他の利害関係が無く、一般株主と利益相反の生じる恐れのない独立役員として株式会社東京証券取引所に届出を行なっております。

役員報酬の内容

a. 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	38,400	38,400	-	-	-	3
監査役 (社外監査役を除く。)	5,040	5,040	-	-	-	1
社外役員	7,200	7,200	-	-	-	2

b. 提出会社の役員ごと報酬等の総額

役員報酬等の総額が1億円以上であるものが存在しないため、記載しておりません。

c. 使用人兼務役員の使用人給与のうち重要なもの

総額(千円)	対象となる役員の員数(名)	内容
14,835	2	当社規程に基づいた使用人としての給与

d. 役員の報酬等の額の決定に関する方針

取締役の報酬については、株主総会の決議により定められた報酬総額の上限額の範囲内において、各取締役に求められる職責及び能力等を勘案し、取締役会から授権された代表取締役社長が適正な報酬額を決定することとしております。

また、監査役の報酬につきましても、株主総会の決議により定められた報酬総額の上限額の範囲内において、業務分担の状況等を勘案し、監査役会の協議により決定しております。

なお、当社には役員退職慰労金制度はございません。

取締役の定数

当社の取締役の定数は6名以内とする旨、定款で定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及び累積投票によらない旨を定款で定めております。

剰余金の配当の決定機関

当社は、機動的な資本政策を確保するため、会社法第454条第5項に定める剰余金の配当（中間配当）を取締役会決議により可能とする旨を定款で定めております。

自己株式の取得

当社は、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項の定めによる決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

株式の保有状況

- a. 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式
該当事項はありません。
- b. 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式のうち、当事業年度における貸借対照表計上額が資本金額の100分の1を超える銘柄
該当事項はありません。
- c. 保有目的が純投資目的である投資株式
該当事項はありません。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

前事業年度		当事業年度	
監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
7,500	1,600	11,500	2,500

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前事業年度)

監査公認会計士等の非監査業務の内容は、財務報告に係る内部統制整備に関する助言業務等であり
ます。

(当事業年度)

監査公認会計士等の非監査業務の内容は、四半期報告書作成のための助言業務及び株式上場に係る
コンフォートレターの作成業務であります。

【監査報酬の決定方針】

当社の事業規模や特性に照らして監査計画、監査内容、監査日数等を勘案し、双方協議の上で監査報
酬を決定しております。

第5 【経理の状況】

1．財務諸表の作成方法について

当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号、以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、前事業年度(平成22年1月1日から平成22年12月31日まで)は、改正前の財務諸表等規則に基づき、当事業年度(平成23年1月1日から平成23年12月31日まで)は、改正後の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前事業年度(平成22年1月1日から平成22年12月31日まで)及び当事業年度(平成23年1月1日から平成23年12月31日まで)の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツの監査を受けております。

なお、前事業年度に係る監査報告書は、平成23年11月1日提出の有価証券届出書に添付されたものによっております。

3．連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、連結財務諸表を作成しておりません。

4．財務諸表等の適正性を確保するための特段の取り組みについて

当社は、財務諸表等の適正性を確保するための特段の取り組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適時・適切に把握し、会計基準の変更等に迅速に対応するため、財務・会計専門情報誌の定期購読及び監査法人等が主催するセミナーへの積極的な参加を行っております。

1【財務諸表等】
(1)【財務諸表】
【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成22年12月31日)	当事業年度 (平成23年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	281,315	1,059,625
売掛金	84,095	144,862
前渡金	-	210
前払費用	3,776	5,402
繰延税金資産	6,793	20,045
その他	146	227
貸倒引当金	504	738
流動資産合計	375,622	1,229,634
固定資産		
有形固定資産		
建物	7,492	14,978
減価償却累計額	1,338	570
建物(純額)	6,154	14,408
工具、器具及び備品	36,368	46,813
減価償却累計額	13,187	21,816
工具、器具及び備品(純額)	23,181	24,997
有形固定資産合計	29,335	39,405
無形固定資産		
ソフトウェア	5,958	5,716
無形固定資産合計	5,958	5,716
投資その他の資産		
破産更生債権等	1,431	843
長期前払費用	1,096	1,487
繰延税金資産	-	1,452
敷金及び保証金	21,517	42,005
その他	4,702	5,514
貸倒引当金	2,293	2,117
投資その他の資産合計	26,455	49,186
固定資産合計	61,748	94,308
資産合計	437,371	1,323,943

	前事業年度 (平成22年12月31日)	当事業年度 (平成23年12月31日)
負債の部		
流動負債		
未払金	11,399	23,406
未払費用	6,606	13,098
未払法人税等	37,561	202,423
未払消費税等	7,640	25,021
預り金	4,146	6,331
流動負債合計	67,354	270,282
固定負債		
繰延税金負債	107	-
固定負債合計	107	-
負債合計	67,461	270,282
純資産の部		
株主資本		
資本金	15,000	219,930
資本剰余金		
資本準備金	-	204,930
資本剰余金合計	-	204,930
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	354,909	628,800
利益剰余金合計	354,909	628,800
株主資本合計	369,909	1,053,660
純資産合計	369,909	1,053,660
負債純資産合計	437,371	1,323,943

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日)	当事業年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)
売上高	637,198	1,134,497
売上原価	124,435	161,785
売上総利益	512,762	972,712
販売費及び一般管理費	¹ 295,334	¹ 453,947
営業利益	217,428	518,764
営業外収益		
受取利息	84	64
消費税等調整額	-	230
その他	2	8
営業外収益合計	86	303
営業外費用		
株式交付費	-	5,223
株式公開費用	-	5,800
営業外費用合計	-	11,023
経常利益	217,515	508,043
特別損失		
固定資産除却損	-	34
固定資産臨時償却費	-	² 6,721
本社移転費用	-	1,533
賃貸借契約解約損	9,477	-
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	-	346
災害による損失	-	1,082
特別損失合計	9,477	9,718
税引前当期純利益	208,037	498,325
法人税、住民税及び事業税	82,446	239,246
法人税等調整額	2,521	14,812
法人税等合計	84,968	224,433
当期純利益	123,069	273,891

【売上原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成22年1月1日 至 平成22年12月31日)		当事業年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
労務費		6,695	5.4	7,186	4.4
経費		117,740	94.6	154,598	95.6
売上原価		124,435	100.0	161,785	100.0

前事業年度 (自 平成22年1月1日 至 平成22年12月31日)		当事業年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)	
経費の主要な内訳は次の通りであります。		経費の主要な内訳は次の通りであります。	
採用祝い金	62,897 千円	採用祝い金	96,076 千円
アソシエイト報酬	30,449 "	アソシエイト報酬	33,562 "
システム維持費	17,353 "	システム維持費	12,879 "

【株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日)	当事業年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)
株主資本		
資本金		
前期末残高	15,000	15,000
当期変動額		
新株の発行	-	204,930
当期変動額合計	-	204,930
当期末残高	15,000	219,930
資本剰余金		
資本準備金		
前期末残高	-	-
当期変動額		
新株の発行	-	204,930
当期変動額合計	-	204,930
当期末残高	-	204,930
資本剰余金合計		
前期末残高	-	-
当期変動額		
新株の発行	-	204,930
当期変動額合計	-	204,930
当期末残高	-	204,930
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金		
前期末残高	231,839	354,909
当期変動額		
当期純利益	123,069	273,891
当期変動額合計	123,069	273,891
当期末残高	354,909	628,800
利益剰余金合計		
前期末残高	231,839	354,909
当期変動額		
当期純利益	123,069	273,891
当期変動額合計	123,069	273,891
当期末残高	354,909	628,800
株主資本合計		
前期末残高	246,839	369,909
当期変動額		
新株の発行	-	409,860
当期純利益	123,069	273,891
当期変動額合計	123,069	683,751
当期末残高	369,909	1,053,660

	前事業年度 (自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日)	当事業年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)
純資産合計		
前期末残高	246,839	369,909
当期変動額		
新株の発行	-	409,860
当期純利益	123,069	273,891
当期変動額合計	123,069	683,751
当期末残高	369,909	1,053,660

【キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日)	当事業年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期純利益	208,037	498,325
減価償却費	10,760	15,912
貸倒引当金の増減額（ は減少）	666	58
受取利息	84	64
株式交付費	-	5,223
株式公開費用	-	5,800
固定資産臨時償却費	-	6,721
売上債権の増減額（ は増加）	26,971	60,910
未払金の増減額（ は減少）	-	10,518
未払消費税等の増減額（ は減少）	10,537	17,381
その他の資産の増減額（ は増加）	2,651	2,308
その他の負債の増減額（ は減少）	6,633	13,081
その他	5,238	1,136
小計	177,826	510,875
利息の受取額	67	51
法人税等の支払額	100,484	78,775
営業活動によるキャッシュ・フロー	77,409	432,152
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	27,470	29,809
無形固定資産の取得による支出	2,667	1,386
敷金及び保証金の差入による支出	3,073	20,782
敷金及び保証金の回収による収入	2,787	-
資産除去債務の履行による支出	-	2,500
その他の支出	960	80
投資活動によるキャッシュ・フロー	31,385	54,558
財務活動によるキャッシュ・フロー		
株式の発行による収入	-	409,860
株式の発行による支出	-	4,773
株式公開費用の支出	-	4,369
財務活動によるキャッシュ・フロー	-	400,717
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	46,024	778,310
現金及び現金同等物の期首残高	235,291	281,315
現金及び現金同等物の期末残高	281,315	1,059,625

【重要な会計方針】

項目	前事業年度 (自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日)	当事業年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)
1. 固定資産の減価償却の方法	<p>(1) 有形固定資産 定率法を採用しております。 主な耐用年数は以下のとおりであります。</p> <p>建物 15年 工具、器具及び備品 4～15年</p> <p>(2) 無形固定資産 定額法を採用しております。 なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づいております。</p> <p>(3) 長期前払費用 定額法を採用しております。</p>	<p>(1) 有形固定資産 定率法（但し、建物（附属設備を除く）については定額法）を採用しております。 主な耐用年数は以下のとおりであります。</p> <p>建物 8～16年 工具、器具及び備品 4～15年</p> <p>(2) 無形固定資産 同左</p> <p>(3) 長期前払費用 同左</p>
2. 繰延資産の処理方法		株式交付費 支出時に全額費用処理しております。
3. 引当金の計上基準	貸倒引当金 売上債権等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権及び破産更生債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。	貸倒引当金 同左
4. キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲	手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクを負わない短期的な投資からなっております。	同左
5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。	消費税等の会計処理 同左

【会計方針の変更】

<p>前事業年度 (自 平成22年1月1日 至 平成22年12月31日)</p>	<p>当事業年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)</p>
	<p>(資産除去債務に関する会計基準の適用)</p> <p>当事業年度より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。</p> <p>これにより、当事業年度の営業利益及び経常利益はそれぞれ2,447千円、税引前当期純利益は294千円減少しております。また、当会計基準等の適用開始により、投資その他の資産の「敷金及び保証金」が294千円減少しております。</p>

【表示方法の変更】

<p>前事業年度 (自 平成22年1月1日 至 平成22年12月31日)</p>	<p>当事業年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)</p>
	<p>(損益計算書関係)</p> <p>前事業年度において、営業外収益の「その他」に含めておりました「消費税等調整額」(前事業年度2千円)は、営業外収益の総額の100分の10を超えたため、当事業年度においては区分掲記することとしました。</p> <p>(キャッシュ・フロー計算書関係)</p> <p>前事業年度において、営業活動によるキャッシュ・フローの「その他の負債の増減額(は減少)」に含めておりました「未払金の増減額(は減少)」(前事業年度10,683千円)は、重要性が増したため、当事業年度においては区分掲記することとしました。</p>

【注記事項】

(損益計算書関係)

前事業年度 (自 平成22年1月1日 至 平成22年12月31日)		当事業年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)	
1	販売費及び一般管理費の主なもの	1	販売費及び一般管理費の主なもの
	広告宣伝費 26,557 千円		広告宣伝費 29,832 千円
	貸倒引当金繰入額 822 "		貸倒引当金繰入額 5,015 "
	給与手当 105,277 "		給与手当 179,565 "
	役員報酬 49,160 "		役員報酬 50,640 "
	法定福利費 14,802 "		法定福利費 26,796 "
	支払手数料 22,307 "		支払手数料 29,857 "
	地代家賃 18,247 "		地代家賃 28,016 "
	減価償却費 6,794 "		減価償却費 8,893 "
	おおよその割合		おおよその割合
	販売費 11 %		販売費 9 %
	一般管理費 89 %		一般管理費 91 %
		2	固定資産臨時償却費の内容は、次のとおりであります。
			建物 5,458 千円
			工具、器具及び備品 1,262 "

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成22年1月1日 至 平成22年12月31日)

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	前事業年度末	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	15,000	-	-	15,000

2. 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

該当事項はありません。

当事業年度(自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	前事業年度末	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	15,000	3,435,000	-	3,450,000

(注) 増加数の内容は以下の通りであります。

株式分割による増加	2,985,000株
公募増資による増加	450,000株

2. 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書関係)

前事業年度 (自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日)	当事業年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)
現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成22年12月31日現在)	現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成23年12月31日現在)
現金及び預金 281,315千円	現金及び預金 1,059,625千円
現金及び現金同等物 281,315千円	現金及び現金同等物 1,059,625千円

(金融商品関係)

前事業年度(自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、必要な資金は自己資金で賄っております。一時的な余資につきましては普通預金で保有しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である売掛金及び破産更生債権等は、顧客の信用リスクに晒されております。敷金及び保証金は本社オフィスの敷金であり、差入先の信用リスクに晒されております。営業債務である未払金、未払法人税等及び未払消費税等はすべてが1年以内の支払期日であります。

(3) 金融商品に係るリスクの管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社は、営業債権について経営管理本部が取引先別に期日及び残高を管理するとともに、入金状況を各事業部門に随時連絡しております。これにより、各取引先の財務状況等の悪化による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社は、経営管理本部が適時に資金繰り計画を作成・更新することにより、流動性リスクを管理し

ております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成22年12月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位：千円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	281,315	281,315	-
(2) 売掛金	84,095		
貸倒引当金()	504		
	83,591	83,591	-
(3) 破産更生債権等	1,431		
貸倒引当金()	1,431		
	-	-	-
(4) 敷金及び保証金	21,517	13,575	7,941
資産計	386,424	378,482	7,941
(1) 未払金	11,399	11,399	-
(2) 未払法人税等	37,561	37,561	-
(3) 未払消費税等	7,640	7,640	-
負債計	56,601	56,601	-

() 売掛金、破産更生債権等に対応する貸倒引当金を控除しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法

資産

(1)現金及び預金、(2)売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3)破産更生債権等

担保及び保証による回収見込額等に基づいて貸倒見積高を算定しているため、時価は、決算日における貸借対照表価額から現在の貸倒見積高を控除した金額に近似しており、当該価額をもって時価としております。

(4)敷金及び保証金

時価については、将来キャッシュ・フローを国債の利回り等適切な指標に基づく利率で割り引いた現在価値により算定しております。

負債

(1)未払金、(2)未払法人税等、(3)未払消費税等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(注2) 金銭債権のうち満期のあるものの決算日後の償還予定額

(単位：千円)

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
現金及び預金	281,315	-	-	-
売掛金	84,095	-	-	-
敷金及び保証金	-	-	-	21,517
合計	365,411	-	-	21,517

(注) 破産更生債権等(貸借対照表計上額1,431千円)については、償還予定が明確に確定できないため、記載しておりません。

(追加情報)

当事業年度より、「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 平成20年3月10日)及び「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号 平成20年3月10日)を適用しております。

当事業年度(自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、必要な資金は自己資金で賄っております。一時的な余資につきましては普通預金で保有しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である売掛金及び破産更生債権等は、顧客の信用リスクに晒されております。敷金及び保証金は本社オフィスの敷金であり、差入先の信用リスクに晒されております。営業債務である未払金、未払法人税等及び未払消費税等はすべてが1年以内の支払期日であります。

(3) 金融商品に係るリスクの管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社は、営業債権について経営管理本部が取引先別に期日及び残高を管理するとともに、入金状況を各事業部門に随時連絡しております。これにより、各取引先の財務状況等の悪化による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社は、経営管理本部が適時に資金繰り計画を作成・更新することにより、流動性リスクを管理しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成23年12月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位：千円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	1,059,625	1,059,625	-
(2) 売掛金	144,862		
貸倒引当金()	738		
	144,123	144,123	-
(3) 破産更生債権等	843		
貸倒引当金()	843		
	-	-	-
(4) 敷金及び保証金	42,005	24,432	17,573
資産計	1,245,755	1,228,181	17,573
(1) 未払金	23,406	23,406	-
(2) 未払法人税等	202,423	202,423	-
(3) 未払消費税等	25,021	25,021	-
負債計	250,852	250,852	-

() 売掛金、破産更生債権等に対応する貸倒引当金を控除しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法

資産

(1)現金及び預金、(2)売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3)破産更生債権等

担保及び保証による回収見込額等に基づいて貸倒見積高を算定しているため、時価は、決算日における貸借対照表価額から現在の貸倒見積高を控除した金額に近似しており、当該価額をもって時価としております。

(4)敷金及び保証金

時価については、将来キャッシュ・フローを国債の利回り等適切な指標に基づく利率で割り引いた現在価値により算定しております。

負債

(1)未払金、(2)未払法人税等、(3)未払消費税等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(注2) 金銭債権のうち満期のあるものの決算日後の償還予定額

(単位:千円)

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
現金及び預金	1,059,625	-	-	-
売掛金	144,862	-	-	-
敷金及び保証金	-	-	-	42,005
合計	1,204,488	-	-	42,005

(注) 破産更生債権等(貸借対照表計上額843千円)については、償還予定が明確に確定できないため、記載していません。

(ストック・オプション等関係)

前事業年度(自 平成22年1月1日 至 平成22年12月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)

1. 当該事業年度における費用計上額及び科目名

該当事項はありません。

2. スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

	平成23年第1回ストック・オプション
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 1名 当社従業員 27名
株式の種類別ストック・オプション付与数(注)	普通株式 74,600株
付与日	平成23年7月14日
権利確定条件	新株予約権者が権利行使時において、当社又は当社子会社及び当社関連会社の取締役、監査役、従業員のいずれかの地位を保有している場合に行使することができる。ただし、取締役会より特例として権利行使を認める旨の書面による承認を事前に得た場合はこの限りではない。 その他の条件は、平成23年3月29日の定時株主総会並びに平成23年7月13日の取締役会決議に基づき、当社と新株予約権者の間で締結する「新株予約権割当契約書」に定めるところによる。
対象勤務期間	対象勤務期間の定めはありません。
権利行使期間	平成25年7月15日～平成33年3月29日

(注) 平成23年9月28日付株式分割(1株につき200株の割合)による分割後の価格に換算して記載しております。

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

ストック・オプションの数

	平成23年第1回ストック・オプション
権利確定前(株)	
前事業年度末	-
付与	74,600
失効	-
権利確定	-
未確定残	74,600
権利確定後(株)	
前事業年度末	-
権利確定	-
権利行使	-
失効	-
未行使残	-

(注) 平成23年9月28日付株式分割(1株につき200株の割合)による分割後の価格に換算して記載しております。

単価情報

	平成23年第1回ストック・オプション
権利行使価格(円)	210
行使時平均株価(円)	-
付与日における公正な評価単価(円)	-

(注) 平成23年9月28日付株式分割(1株につき200株の割合)による分割後の価格に換算して記載しております。

3. 当事業年度に付与されたストック・オプションの公正な評価単価の見積方法

当事業年度において付与された平成23年第1回ストック・オプションの公正な評価単価は、付与した時点においては、当社は未公開企業であったため、単位あたりの本源的価値を見積もる方法により算定しております。

また、単位あたりの本源的価値を算定する基礎となる自社の株式価値は、純資産方式及び類似会社比準方式により算出した価格を総合的に勘案して算定しております。

なお、算定の結果、株式の評価額が新株予約権の行使時の払込金額を下回るため、単位あたりの本源的価値はゼロとなり、ストック・オプションの公正な評価単価もゼロと算定しております。

4. ストック・オプションの権利確定数の見積方法

将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

(税効果会計関係)

前事業年度 (平成22年12月31日)	当事業年度 (平成23年12月31日)																																																																
<p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>(繰延税金資産)</p> <p>(1) 流動資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">未払事業税</td> <td style="text-align: right;">3,531 千円</td> </tr> <tr> <td>地代家賃</td> <td style="text-align: right;">1,517 "</td> </tr> <tr> <td>支払報酬</td> <td style="text-align: right;">788 "</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">955 "</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">6,793 千円</td> </tr> </table> <p>(2) 固定資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">貸倒引当金</td> <td style="text-align: right;">658 千円</td> </tr> <tr> <td>ソフトウェア制作費</td> <td style="text-align: right;">444 "</td> </tr> <tr> <td>繰延税金負債(固定)との相殺</td> <td style="text-align: right;">1,103 "</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">- 千円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">繰延税金資産合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">6,793 千円</td> </tr> </table> <p>(繰延税金負債)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">固定負債</td> <td></td> </tr> <tr> <td>保険積立金</td> <td style="text-align: right;">1,211 千円</td> </tr> <tr> <td>繰延税金資産(固定)との相殺</td> <td style="text-align: right;">1,103 "</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">繰延税金負債合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">107 千円</td> </tr> </table>	未払事業税	3,531 千円	地代家賃	1,517 "	支払報酬	788 "	その他	955 "	計	6,793 千円	貸倒引当金	658 千円	ソフトウェア制作費	444 "	繰延税金負債(固定)との相殺	1,103 "	計	- 千円	繰延税金資産合計	6,793 千円	固定負債		保険積立金	1,211 千円	繰延税金資産(固定)との相殺	1,103 "	繰延税金負債合計	107 千円	<p>1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>(繰延税金資産)</p> <p>(1) 流動資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">未払事業税</td> <td style="text-align: right;">13,335 千円</td> </tr> <tr> <td>貸倒引当金</td> <td style="text-align: right;">456 "</td> </tr> <tr> <td>地代家賃</td> <td style="text-align: right;">2,868 "</td> </tr> <tr> <td>支払報酬</td> <td style="text-align: right;">1,169 "</td> </tr> <tr> <td>貸倒損失</td> <td style="text-align: right;">713 "</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">1,501 "</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">20,045 千円</td> </tr> </table> <p>(2) 固定資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">貸倒引当金</td> <td style="text-align: right;">208 千円</td> </tr> <tr> <td>一括償却資産</td> <td style="text-align: right;">1,745 "</td> </tr> <tr> <td>ソフトウェア制作費</td> <td style="text-align: right;">545 "</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">157 "</td> </tr> <tr> <td>繰延税金負債(固定)との相殺</td> <td style="text-align: right;">1,204 "</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,452 千円</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">繰延税金資産合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">21,498 千円</td> </tr> </table> <p>(繰延税金負債)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">固定負債</td> <td></td> </tr> <tr> <td>保険積立金</td> <td style="text-align: right;">1,204 千円</td> </tr> <tr> <td>繰延税金資産(固定)との相殺</td> <td style="text-align: right;">1,204 "</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">繰延税金負債合計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">- 千円</td> </tr> </table>	未払事業税	13,335 千円	貸倒引当金	456 "	地代家賃	2,868 "	支払報酬	1,169 "	貸倒損失	713 "	その他	1,501 "	計	20,045 千円	貸倒引当金	208 千円	一括償却資産	1,745 "	ソフトウェア制作費	545 "	その他	157 "	繰延税金負債(固定)との相殺	1,204 "	計	1,452 千円	繰延税金資産合計	21,498 千円	固定負債		保険積立金	1,204 千円	繰延税金資産(固定)との相殺	1,204 "	繰延税金負債合計	- 千円
未払事業税	3,531 千円																																																																
地代家賃	1,517 "																																																																
支払報酬	788 "																																																																
その他	955 "																																																																
計	6,793 千円																																																																
貸倒引当金	658 千円																																																																
ソフトウェア制作費	444 "																																																																
繰延税金負債(固定)との相殺	1,103 "																																																																
計	- 千円																																																																
繰延税金資産合計	6,793 千円																																																																
固定負債																																																																	
保険積立金	1,211 千円																																																																
繰延税金資産(固定)との相殺	1,103 "																																																																
繰延税金負債合計	107 千円																																																																
未払事業税	13,335 千円																																																																
貸倒引当金	456 "																																																																
地代家賃	2,868 "																																																																
支払報酬	1,169 "																																																																
貸倒損失	713 "																																																																
その他	1,501 "																																																																
計	20,045 千円																																																																
貸倒引当金	208 千円																																																																
一括償却資産	1,745 "																																																																
ソフトウェア制作費	545 "																																																																
その他	157 "																																																																
繰延税金負債(固定)との相殺	1,204 "																																																																
計	1,452 千円																																																																
繰延税金資産合計	21,498 千円																																																																
固定負債																																																																	
保険積立金	1,204 千円																																																																
繰延税金資産(固定)との相殺	1,204 "																																																																
繰延税金負債合計	- 千円																																																																
<p>2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳</p> <p>法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の百分の五以下であるため注記を省略しております。</p>	<p>2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">法定実効税率</td> <td style="text-align: right;">40.69 %</td> </tr> <tr> <td>(調整)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>留保金課税</td> <td style="text-align: right;">3.40 "</td> </tr> <tr> <td>交際費等永久に損金に算入されない項目</td> <td style="text-align: right;">0.12 "</td> </tr> <tr> <td>住民税均等割額</td> <td style="text-align: right;">0.11 "</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">0.72 "</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">税効果会計適用後の法人税等の負担率</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">45.04 %</td> </tr> </table>	法定実効税率	40.69 %	(調整)		留保金課税	3.40 "	交際費等永久に損金に算入されない項目	0.12 "	住民税均等割額	0.11 "	その他	0.72 "	税効果会計適用後の法人税等の負担率	45.04 %																																																		
法定実効税率	40.69 %																																																																
(調整)																																																																	
留保金課税	3.40 "																																																																
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.12 "																																																																
住民税均等割額	0.11 "																																																																
その他	0.72 "																																																																
税効果会計適用後の法人税等の負担率	45.04 %																																																																

前事業年度 (平成22年12月31日)	当事業年度 (平成23年12月31日)						
	<p>3. 法定実効税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の修正</p> <p>上場に行われていた公募増資の結果、当事業年度において資本金が増加したことに伴い、外形標準課税が適用されることになりました。</p> <p>また、平成23年12月2日に「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」(平成23年法律第114号)及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」(平成23年法律第117号)が公布され、平成24年4月1日以降開始する事業年度より法人税率が変更されることとなりました。</p> <p>これらに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用される法定実効税率は、前事業年度の42.05%から一時差異に係る解消時期に応じて以下の通りとなります。</p> <table data-bbox="774 750 1332 884"> <tr> <td>平成24年12月31日まで</td> <td>40.69 %</td> </tr> <tr> <td>平成25年1月1日から平成27年12月31日</td> <td>38.01 %</td> </tr> <tr> <td>平成28年1月1日以降</td> <td>35.64 %</td> </tr> </table> <p>この変更により、繰延税金資産及び法人税等調整額に及ぼす影響は軽微であります。</p>	平成24年12月31日まで	40.69 %	平成25年1月1日から平成27年12月31日	38.01 %	平成28年1月1日以降	35.64 %
平成24年12月31日まで	40.69 %						
平成25年1月1日から平成27年12月31日	38.01 %						
平成28年1月1日以降	35.64 %						

(持分法損益等)

前事業年度(自 平成22年1月1日 至 平成22年12月31日)

当社は、関連会社が存在しないため、該当事項はありません。

当事業年度(自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)

当社は、関連会社が存在しないため、該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

当事業年度末(平成23年12月31日)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、主にインターネットにおける各種情報メディアの運営事業を展開しており、「求人情報メディア事業」及び「不動産情報メディア事業」の2つを報告セグメントとしております。

「求人情報メディア事業」では求人情報を提供するサイトの運営を、「不動産情報メディア事業」では、不動産情報を提供するサイトの運営を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「重要な会計方針」における記載と概ね同一であります。報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前事業年度(自 平成22年1月1日 至 平成22年12月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	財務諸表 計上額 (注) 3
	求人情報 メディア 事業	不動産情報 メディア 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	614,200	8,878	623,078	14,120	637,198	-	637,198
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	614,200	8,878	623,078	14,120	637,198	-	637,198
セグメント利益又は損失()	415,331	1,226	414,105	6,902	421,008	203,579	217,428

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、Webマーケティングに関する助言業務等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失()の調整額は、全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失()は、損益計算書の営業利益と調整を行なっております。

4. 報告セグメントごとの資産、負債その他の項目につきましては、経営資源の配分の決定及び業績を評価するための対象とはしていないため、記載しておりません。

当事業年度(自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	財務諸表 計上額 (注) 3
	求人情報 メディア 事業	不動産情報 メディア 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	1,004,769	93,165	1,097,935	36,562	1,134,497	-	1,134,497
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	1,004,769	93,165	1,097,935	36,562	1,134,497	-	1,134,497
セグメント利益	741,457	73,291	814,748	6,296	821,045	302,281	518,764

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、Webマーケティングに関する助言業務等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額は、全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、損益計算書の営業利益と調整を行なっております。

4. 報告セグメントごとの資産、負債その他の項目につきましては、経営資源の配分の決定及び業績を評価するための対象とはしていないため、記載しておりません。

【関連情報】

当事業年度(自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

当事業年度(自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

当事業年度(自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

当事業年度(自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)

該当事項はありません。

(追加情報)

当事業年度より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

【関連当事者情報】

前事業年度(自 平成22年1月1日 至 平成22年12月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

前事業年度 (自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日)	当事業年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)
1株当たり純資産額 24,660.63円	1株当たり純資産額 305.41円
1株当たり当期純利益金額 8,204.66円	1株当たり当期純利益金額 90.37円
	潜在株式調整後1株当たり 純利益金額 89.42円
<p>なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。</p>	<p>当社株式は平成23年12月7日をもって、東京証券取引所マザーズ市場に上場しているため、当事業年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額は、新規上場日から当事業年度までの平均株価を期中平均株価とみなして算定しております。</p> <p>当社は、平成23年9月28日付で普通株式1株に対し普通株式200株の割合で株式分割を行いました。前期首に当該株式分割が行われたと仮定した場合における前事業年度の(1株当たり情報)の各数値は以下のとおりであります。</p> <p>1株当たり純資産額 123.30円 1株当たり当期純利益金額 41.02円</p> <p>なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。</p>

(注) 1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日)	当事業年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)
1株当たり当期純利益金額		
損益計算書上の当期純利益(千円)	123,069	273,891
普通株式に係る当期純利益(千円)	123,069	273,891
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式の期中平均株式数(株)	15,000	3,030,822
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
当期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	-	32,127
(うち新株予約権(株))	(-)	(32,127)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式の概要	-	-

(重要な後発事象)

<p>前事業年度 (自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日)</p>	<p>当事業年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)</p>
<p>1. 当社は、平成23年 3月29日の定時株主総会並びに平成23年 7月13日の取締役会に基づき、平成23年 7月14日付にて当社取締役及び従業員に対し新株予約権の割当を実施いたしました。</p> <p>(1) 目的 当社の取締役及び従業員に対して新株予約権を付与することで、当社の業績向上に対する意欲や士気を高め、当社の企業価値向上を図る。</p> <p>(2) 新株予約権の発行総数 373個</p> <p>(3) 新株予約権の払込金額 金銭の払込みを要しないもの(無償)とする。</p> <p>(4) 新株予約権の目的となる株式の種類及び数 新株予約権 1個の目的である株式の数は、当社普通株式 1株とする。</p> <p>(5) 新株予約権行使時の払込金額 株式 1株当たりの金額は金42,000円とする。</p> <p>(6) 発行価額のうち資本へ組み入れる額 増加する資本金の額は、会社計算規則第17条の規定による資本金等増加限度額のうち、これに2分の1を乗じ、1円未満の端数を切り上げた額とし、その余は資本準備金に組み入れるものとする。</p> <p>(7) 割当日 平成23年 7月14日</p> <p>(8) 新株予約権の行使期間 平成25年 7月15日から平成33年 3月29日まで ただし行使期間の開始日が当社の休業日にあたる時はその翌営業日を開始日とし、また、行使期間の最終日が当社の休業日にあたる時はその前営業日を最終日とする。</p> <p>(9) 権利行使の条件 新株予約権者が権利行使時において、当社又は当社子会社及び当社関連会社の取締役、監査役、従業員のいずれかの地位を保有している場合に行使することができる。ただし、取締役会より特例として権利行使を認める旨の書面による承認を事前に得た場合はこの限りではない。</p> <p>当社株式が、日本国内の証券取引所に上場され6ヶ月を経過した日及び上記(8)の権利行使期間の開始日のいずれか遅い方の日以降において、新株予約権を行使することができるものとする。</p> <p>当社株式が、日本国内の証券取引所に上場され6ヶ月を経過した日及び上記(8)の権利行使期間の開始日のいずれか遅い方の日以降、1年以内の間は付与数の50%を上限として権利行使することができる。ただし、計算上、小数点第1位以下の端数が出た場合は切り捨てとする。</p>	

前事業年度 (自 平成22年 1月 1日 至 平成22年12月31日)	当事業年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)						
<p>前 の期間経過後については、付与数の全てを権利行使することができる。</p> <p>本新株予約権は、新株予約権割当契約に違反して権利行使することはできない。</p> <p>(10)新株予約権の譲渡制限 新株予約権を譲渡により取得する場合は、取締役会の承認を要する。</p> <p>ただし、租税特別措置法による優遇税制を受ける場合には、譲渡することができないものとする。</p>							
<p>2. 当社は、株式上場に向けての資本政策の一環で株式の流動性の向上を図ることを目的として、平成23年 8月11日開催の取締役会決議に基づき、平成23年 9月27日を基準日として平成23年 9月28日付で下記の通り株式分割及び単元株制度導入を行なっております。</p> <p>(1)株式分割の概要</p> <p>株式分割の方法 平成23年 9月27日の最終の株主名簿に記載又は記録された株主の所有株式数を1株につき200株の割合をもって分割した。</p> <p>分割により増加する株式数</p> <p>株式分割前の当社発行済株式総数 普通株式 15,000株</p> <p>今回の分割により増加する株式数 普通株式 2,985,000株</p> <p>株式分割後の当社発行済株式総数 普通株式 3,000,000株</p> <p>(2)株式分割の効力発生日 平成23年 9月28日</p> <p>当該株式分割が前期首に行われたと仮定した場合における(1株当たり情報)の各数値はそれぞれ以下のとおりであります。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">前事業年度</th> <th style="text-align: center;">当事業年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1株当たり純資産額 82.28円</td> <td>1株当たり純資産額 123.30円</td> </tr> <tr> <td>1株当たり当期純利益金額 41.21円</td> <td>1株当たり当期純利益金額 41.02円</td> </tr> </tbody> </table> <p>なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。</p> <p>(3)発行可能株式総数の増加及び単元株制度の導入 平成23年9月28日をもって当社定款第5条を変更し、発行可能株式総数を11,500,000株増加して12,000,000株といたしました。同様に、当社定款第6条を新設し、100株を1単元とする単元株制度を導入いたしました。</p>	前事業年度	当事業年度	1株当たり純資産額 82.28円	1株当たり純資産額 123.30円	1株当たり当期純利益金額 41.21円	1株当たり当期純利益金額 41.02円	
前事業年度	当事業年度						
1株当たり純資産額 82.28円	1株当たり純資産額 123.30円						
1株当たり当期純利益金額 41.21円	1株当たり当期純利益金額 41.02円						

【附属明細表】

【有価証券明細表】

該当事項はありません。

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	前期末残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額(千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末 残高(千円)
有形固定資産							
建物	7,492	14,978	7,492	14,978	570	6,534	14,408
工具、器具及び備品	36,368	14,439	3,994	46,813	21,816	12,023	24,997
有形固定資産計	43,860	29,418	11,486	61,792	22,386	18,557	39,405
無形固定資産							
ソフトウェア	7,679	1,434	-	9,113	3,397	1,676	5,716
無形固定資産計	7,679	1,434	-	9,113	3,397	1,676	5,716
長期前払費用	1,232	845	-	2,077	590	454	1,487

(注) 1. 当期増加額のうち主なものは次のとおりであります。

建物	本社内装工事等	14,978千円
工具、器具及び備品	本社移転に伴う備品	13,615千円

2. 当期償却額には、固定資産臨時償却費6,721千円が含まれております。

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

該当事項はありません。

【引当金明細表】

区分	前期末残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	2,797	6,218	4,919	1,239	2,856

(注) 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」は、洗替による戻入額及び債権回収による取崩額であります。

【資産除去債務明細表】

当事業年度末における資産除去債務の金額が、当事業年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、財務諸表等規則第125条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

資産の部

a 現金及び預金

区分	金額(千円)
現金	-
預金	
普通預金	1,059,625
小計	1,059,625
合計	1,059,625

b 売掛金

相手先別内訳

相手先	金額(千円)
Google Ireland Limited	4,345
(株)アパマンショップネットワーク	3,924
(株)ゼンショーベストクルー	3,480
(株)グラート	3,090
パワーテクノロジー(株)	2,672
その他	127,349
合計	144,862

売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

前期繰越高(千円)	当期発生高(千円)	当期回収高(千円)	次期繰越高(千円)	回収率(%)	滞留期間(日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A)+(B)} \times 100$	$\frac{(A)+(D)}{2} - \frac{(B)}{365}$
84,095	1,188,547	1,127,781	144,862	88.6	35.2

(注) 消費税等の会計処理は、税抜方式を採用しておりますが、上記金額には消費税等が含まれております。

負債の部

a 未払金

相手先別内訳

相手先	金額(千円)
アメリカン・エクスプレス・ジャパン(株)	6,055
(株)キイストン	2,471
(株)東京証券取引所	1,502
(株)インテリジェンス	1,436
(株)ジェイエイシーリクルートメント	1,266
その他	10,675
合計	23,406

b 未払法人税等

相手先	金額(千円)
法人税	140,190
住民税	29,459
事業税	15,355
地方法人特別税	17,418
合計	202,423

(3) 【その他】

当事業年度における各四半期会計期間に係る売上高等

	第1四半期 (自 平成23年1月1日 至 平成23年3月31日)	第2四半期 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)	第3四半期 (自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日)	第4四半期 (自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日)
売上高 (千円)	-	-	307,656	337,605
税引前 四半期純利益金額 (千円)	-	-	137,103	140,857
四半期純利益金額 (千円)	-	-	79,730	65,894
1株当たり 四半期純利益金額 (円)	-	-	26.58	21.74

(注) 1. 当社は、平成23年12月7日付で東京証券取引所マザーズに上場いたしましたので、当事業年度の四半期報告書は提出していません。

2. 当社は、金融証券取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期会計期間及び第3四半期累計期間の四半期財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより四半期レビューを受けております。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎事業年度末日の翌日から3ヵ月以内
基準日	12月31日
剰余金の配当の基準日	6月30日 12月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	-
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告の方法により行います。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に公告を掲載します。 なお、電子公告は当社ホームページに掲載しており、そのアドレスは以下のとおりであります。 http://www.livesense.co.jp/
株主に対する特典	該当事項はありません。

- (注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は次に掲げる権利以外の権利を行使することはできません。
- ・会社法第189条第2項各号に掲げる権利
 - ・会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
 - ・株主の有する株式数に応じて募集株式の割当ておよび募集新株予約権の割当てを受ける権利
 - ・株主の有する単元未満株式の数と併せて単元株式数となる数の株式を売り渡すことを請求する権利

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券届出書及びその添付書類

有償一般募集増資(ブックビルディング方式による募集)及び株式売出し(ブックビルディング方式による売出し)平成23年11月1日関東財務局長に提出。

(2) 有価証券届出書の訂正届出書

上記(1)に係る訂正届出書を平成23年11月17日及び平成23年11月29日関東財務局長に提出。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書

平成23年10月25日

株式会社リブセンス
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 松 本 保 範

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 水 野 雅 史

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社リブセンスの平成22年1月1日から平成22年12月31日までの第5期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者であり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社リブセンスの平成22年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

追記情報

「重要な後発事象」に記載されているとおり、会社は平成23年8月11日開催の取締役会決議に基づき、平成23年9月28日付をもって普通株式1株を200株とする株式分割を行っている。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券届出書提出会社)が別途保管しております。
- 2 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成24年 3月28日

株式会社リブセンス
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	松	本	保	範
--------------------	-------	---	---	---	---

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	水	野	雅	史
--------------------	-------	---	---	---	---

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社リブセンスの平成23年1月1日から平成23年12月31日までの第6期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社リブセンスの平成23年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社リブセンスの平成23年12月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者にあり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、株式会社リブセンスが平成23年12月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。